

科目名	ガラス工芸実習 I	年次	3	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	山野 宏				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>実際に使うことを考慮したテーブルウェア、器などをデザインし制作することで発想とデザイン能力を養い、同時に吹きガラス技法のさらなる技術習得を目指します。作品制作の前にコンセプトボードを制作し、パワーポイントによるプレゼンテーションを行いプレゼン能力の向上も目指します。</p>					
授業概要					
<p>対面授業 アイディアスケッチに基づくディスカッション、プレゼンテーション、制作 技法デモ、制作実習、講評会の順序で授業を基本的に進めます。</p>					
受講上の注意					
<p>吹きガラス工房では必ず綿の作業服を着用する事。 ハイヒールでの制作は禁止します。 教員、助手の指示に従い安全な作業を心がけてください。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
制作作品			50		
プレゼンテーション			50		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
ガラス工芸作家 ガラス工房経営			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	「自分のタンブラー」の課題説明、球体の制作デモ		
2	アイデアスケッチ提出／面談 制作実習		
3	面談／デモ 制作実習		
4	面談／デモ 制作実習		
5	パワーポイントによる作品プレゼンテーション／ボード提出 講評会		
6	タンブラーの制作実習 各々の学生のアイデアスケッチに基づく制作デモ		
7	タンブラーの制作実習 各々の学生のアイデアスケッチに基づく制作デモ		
8	「自分の花器」の課題説明、制作デモ タンブラー制作実技試験		
9	アイデアスケッチ提出／面談 タンブラー制作実技試験		
10	面談／デモ タンブラー制作実技試験		

11	パワーポイントによるプレゼンテーション／プレゼンテーションボード提出 講評会 タンブラー制作実技試験
12	花器の制作実習、各々の学生のアイディアスケッチに基づく制作デモ
13	花器の制作実習、各々の学生のアイディアスケッチに基づく制作デモ
14	花器制作実習
15	前期講評会
16	「飲器と食器」課題説明 制作デモ 制作実習
17	アイディアスケッチ提出／面談 制作実技試験
18	面談／デモ 制作実習
19	面談／デモ 制作実習
20	パワーポイントによるプレゼンテーション／プレゼンテーションボード提出 講評会
21	制作実習、各々の学生のアイディアスケッチに基づく制作デモ
22	制作実習、各々の学生のアイディアスケッチに基づく制作デモ
23	制作実習
24	「自分のテーブル」課題説明 制作デモ 制作実習
25	面談／デモ 制作実習
26	パワーポイントによるプレゼンテーション／プレゼンテーションボード提出 講評会
27	制作実習、各々の学生のアイディアスケッチに基づく制作デモ
28	制作実習、各々の学生のアイディアスケッチに基づく制作デモ
29	制作実習
30	講評会

科目名	ガラス工芸実習Ⅱ	年次	3	単位数	4
授業期間	2022年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	山野 宏				
クラス名					

授業目的と到達目標

前期／型作り、ホットキャスト、ホットワーク、コールドワーク技法をさらに習得し、立体物による制作コンセプト表現を学びます。|後期／グループ展のための複数の作品制作を通し各々の制作スタイルを模索すると同時に、コンセプトを作品で表現することの経験を深め、卒業制作の前段階の準備をする。

授業概要

対面授業|前期／ホットキャスト、吹きガラス、コールドワーク技法を活用し、課題に沿って立体表現について学習します。|後期／様々な技法を活用し、各々の学生の制作コンセプトに基づいて数展の|作品を制作し、後期末にグループ展を行います。

受講上の注意

吹きガラス工房では必ず綿の作業服を着用する。|ハイヒールでの作業は禁止します。|教員及び助手の指示に従い安全に作業を行きましょう。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
制作作品	70
プレゼンテーション	30

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
ガラス工芸作家 ガラス工房経営			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	課題説明「コンテナー」 サンドキャスト、水砂キャストの技法解説とデモ		
2	アイデアスケッチ提出／面談 モールドミックスキャストの技法説明とデモ		
3	パワーポイントによる「プレゼンテーション」 モールドミックスキャストの技法説明とデモ		
4	水ガラスキャスト技法解説とデモ		
5	ピレットキャスト技法の技法解説とデモ 面談、制作実習		
6	面談、制作実習		
7	面談、制作実習		
8	課題説明「見せ場」		
9	アイデアスケッチ提出／面談		
10	パワーポイントによる「プレゼンテーション」 面談、制作実習		

11	面談、制作実習
12	面談、制作実習
13	面談、制作実習
14	制作実習
15	講評会
16	後期課題説明／グループ展の開催について
17	アイデアスケッチを通しての面談
18	アイデアスケッチを通しての面談
19	プレゼンテーションの為に資料提出／面談
20	制作プレゼンテーション／講評
21	制作実習／制作アドバイス
22	制作実習／制作アドバイス
23	制作実習／制作アドバイス
24	制作実習／制作アドバイス
25	制作実習／制作アドバイス
26	制作実習
27	制作実習
28	制作実習
29	講評会
30	作品の写真撮影指導

科目名	金工実習 I	年次	3	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	足立 正毅、水野 年彦				
クラス名					
授業目的と到達目標					
授業目的: ガス型鑄造・蠟型鑄造技法における、それぞれの造形性と 技法・技術の違いを理解する。 到達目標: ガス型及び蠟型技法による鑄造2作品の制作。					
授業概要					
【対面授業】 前期: 第一課題「ガス型鑄造による作品制作」と、その展示。 後期: 第二課題「蠟型鑄造による作品制作」と、その展示。 担当教員ともに授業課題の内容に即した作品制作研究等の実務経験を有する。					
受講上の注意					
作品制作にあたって構想の段階から技法・素材・展示方法などを含め、充 分な検討を行っておくこと。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出物			20		
制作作品			80		
教科書情報					
教科書1	参考資料配布				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
鑄金作家が指導にあたります。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	【対面】「ガス型鑄造作品」課題説明、原形制作。		
2	【対面】原形制作。		
3	【対面】原形制作。		
4	【対面】原形制作。鑄型制作。		
5	【対面】原形制作。鑄型制作。		
6	【対面】鑄型制作。		
7	【対面】鑄型制作。		
8	【対面】鑄型制作。鑄込み。		
9	【対面】鑄込み。		
10	【対面】鑄物仕上げ。		
11	【対面】鑄物仕上げ。		
12	【対面】鑄物仕上げ。		

13	【対面】 作品展示部品及び、展示台制作。 作品仕上げ。
14	【対面】 作品展示部品及び、展示台制作。 作品仕上げ。
15	【対面】 作品提出、合評。
16	【対面】 「蠟型鑄造作品」課題説明、作品資料配布。 蠟型原型材料作り。
17	【対面】 「蠟型鑄造作品」制作構想図提出、構想検討。 蠟型原型材料作り。
18	【対面】 「蠟型鑄造作品」構想検討。 蠟型原型材料作り。 蠟型原型制作。
19	【対面】 蠟型原型制作。
20	【対面】 蠟型原型制作。
21	【対面】 蠟型原型制作。 蠟型原型埋没。
22	【対面】 蠟型原型埋没。 鑄型焼成。
23	【対面】 蠟型原型埋没。 鑄型焼成。
24	【対面】 鑄込み。
25	【対面】 鑄込み。
26	【対面】 鑄物仕上げ。
27	【対面】 鑄物仕上げ。
28	【対面】 作品展示部品及び、展示台制作。 作品仕上げ。
29	【対面】 作品展示部品及び、展示台制作。 作品仕上げ。
30	【対面】 作品提出、合評。

科目名	金工実習Ⅱ	年次	3	単位数	4
授業期間	2022年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	長谷川 政弘、佐藤 享弘				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>アセチレン溶接、MIG 溶接などの溶接機材の取り扱いを学び、溶接技術を習得する。安全でスムーズな溶接作業ができ、鉄素材の特性を理解する事を目標とする。 ものや身体との関係に目を向け、そこから生まれる気づきから作品を構築できる力を養う。 後期は展覧会での作品発表を前提とした作品を制作し、そこで得たものを4回生の制作につなげる。</p>					
授業概要					
<p>前期は「鉄課題」と「ジュエリー課題」の2課題を行う。 「鉄課題」:アセチレンガスや電気溶接機を使って溶接、溶断の練習を行ったのち鉄板で来年の干支「卯(うさぎ)」を制作する。 「ジュエリー課題」:身体とかかわる小立体を銅の板や線材を用いて制作する。 後期は「環境と向き合う」をテーマに作品を制作する。</p>					
受講上の注意					
<p>「鉄課題」: 鉄でつくられた彫刻作品、工芸作品を調べてパワーポイントで編集し授業内で発表してもらいます。5月にアセチレンガス技能講習修了証を取得してもらいます。完成作品はすべてポートフォリオを制作してもらいます。 「ジュエリー課題」: ジュエリー作家の作品の中から「好きな作品」と「嫌いな作品」を各一点ずつ紹介し、その理由を述べてもらいます。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業に取り組む姿勢			40		
作品構想、完成作品			60		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			

教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	ジュエリー課題:「アフォーダンス入門 - 知性はどこに生まれるか」		
出版社名	講談社	著者名	佐々木正人
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
http://masaab.sakura.ne.jp			
特記事項			
ジュエリー課題:「TALENTE」「SCHMUCK」等の作品カタログが図書館に 収蔵されていますので参考にしてください。			
教員実務経験			
金属造形作家である教員とジュエリー作家の教員が経験を生かした指導を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	A 班 B 班合同ガイダンス 学生によるパワーポイントを使ったプレゼンテーション(オマージュ作家について)		
2	鉄課題「卯(うさぎ)」 アセチレン溶断、エアープラズマー溶断の実技講習		
3	アセチレン溶接、MIG 溶接の実技講習		
4	干支制作:アイデア提出、紙による模型づくり		

5	干支制作:溶断、切断
6	干支制作:成形(曲げ、叩きなど)溶接
7	干支制作:仕上げ→完成
8	ジュエリー課題「身体と関わる小立体」 課題説明 作品紹介
9	・制作実習 ・アイデアのチェック
10	・制作実習
11	・制作実習
12	・制作実習
13	・制作実習 ・仕上げ ・写真撮影(装着された状態)
14	学外授業
15	「鉄課題」「ジュエリー課題」合同合評 後期課題の導入
16	後期課題「環境と向き合う」置かれる環境と作品について考える 教員によるレクチャーと学生による パワーポイントを使ったプレゼンテーション
17	学外講師による特別授業
18	アイデアと制作構想の発表1
19	アイデアと制作構想の発表2
20	作品制作1
21	作品制作2
22	作品制作3
23	作品制作4
24	作品進行状況の中間報告
25	作品制作5
26	作品制作6
27	作品制作7
28	作品制作8
29	画像パネル制作 大学内ギャラリー展示準備
30	「環境との対峙」大学内ギャラリーでの公開合評

科目名	工芸製図	年次	2	単位数	2
授業期間	2022年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	井上 剛				
クラス名	【19生対象】				
授業目的と到達目標					
<p>第三者とのイメージの相互理解が必要な場合、図面を介することは非常に有効な手段であり、生産、製作の上では必須となっている。この授業を通して基本的な製図法を理解し、図面の「読み」「書き」を実践する。正投影法をはじめとする基本的な製図法を理解し、第三者に伝達する為に必要な作図力を身につけることを目的とする。</p>					
授業概要					
<p>【対面授業】製図に関する基本知識の学習をと基礎実習作業を通し、第一に「伝える」ための方法を習得し、その後、与えられた図面からそれを実製作することで双方の立場にたつて製図に対する理解を深める。教員は、建築やデザインに関する業務実績を活かしより具体的で実践的な指導をする。</p>					
受講上の注意					
各種製図法(投影法)についての予習					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
実習課題			80		
習熟と理解			10		
その他の提出物			10		
教科書情報					
教科書1	「製図実習」セラミックコース				
出版社名	大阪芸術大学刊	著者名	南和伸		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
ガラス作家／プロダクトデザイナー、建築家、企業などと協業して、様々なガラス作品、製品などを制作			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業ガイダンス／準備物の説明／概要「製図とは？」／課題説明		
2	課題1.線の練習1 製図法の概要／製図に用いられる「線種」の理解		
3	課題1.線の練習2 各種の「線」を引く練習		
4	課題2. 図面の模写&デッサン1 製図の模写—模写を通して、作図の行程を実践、理解する(下図)		
5	課題2. 図面の模写&デッサン?2 製図の模写—模写を通して、作図の行程を実践、理解する(作図)		
6	課題2. 図面の模写&デッサン3 製図の模写—模写を通して、作図の行程を実践、理解する(仕上げ)		

7	課題2. 図面の模写&デッサン4 完成した図面から形状を読み取り、イメージデッサンで立体的に描写する
8	投影法について 各投影法の特徴の理解、小プリントによる読図のトレーニング 課題3の課題説明
9	課題3. マグカップの製図「現物の実測～作図まで」1 各自持参したマグカップを採寸し、フリーハンドで下書きする
10	課題3. マグカップの製図「現物の実測～作図まで」2 フリーハンドの下書きのチェック→本製図のための下書き
11	課題3. マグカップの製図「現物の実測～作図まで」3 製図作業
12	課題3. マグカップの製図「現物の実測～作図まで」4 製図作業
13	課題3. マグカップの製図「現物の実測～作図まで」5 図面完成→提出
14	造形演習「美しいかたち」1 各自「美しいかたち」についてリサーチ
15	造形演習「美しいかたち」2 「美しいかたち」要素の再構成／粘土による造形の試み(エスキース)
16	造形演習「美しいかたち」4 前期に作成したエスキースを基に石膏モデリング
17	造形演習「美しいかたち」5 石膏モデルの制作
18	造形演習「美しいかたち」6 石膏モデルの完成→提出
19	課題4. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」1 課題説明／企画立案
20	課題4. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」2 リサーチ／プレゼンテーション資料の作成
21	課題4. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」3 プレゼンテーション資料の作成
22	課題4. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」4 ロールプレイング「新製品社内コンペ」
23	課題4. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」5 量産を前提として「デザイン→製図」
24	課題4. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」6 製図作業
25	課題4. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」7 製図作業
26	課題4. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」8 製図作業
27	課題4. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」9 図面提出、モデリング(マケット)作成準備
28	課題4. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」10 製品モデル(マケット)製作作業
29	課題4. プロダクトデザインのロールプレイング「注器の制作」11 製品モデル(マケット)製作作業

科目名	工芸製図	年次	2	単位数	2
授業期間	2022年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	長谷川 政弘				
クラス名	【19生対象】				

授業目的と到達目標

図面とは、立体物をつくるすべての仕事において制作者の意向を伝えることができる重要な「共通言語」です。製図の基本を理解し、ものづくりのコミュニケーションを円滑にする事を目的とします。これから制作しようとする立体作品のアイデアを図面化することができ、逆に図面を読み取り、立体にイメージできる能力を身につける事を目標とします。

授業概要

対面授業|前期は線の種類や使い方を知り、実際にある具体的なものを図面化する事によって、三面図の基本を理解します。|後期は、まだ実在しない架空のもの(プラン)を図面化します。フリー曲線を使った作図やもう一つの平面表現であるレンダリングも学習します。最終的には個々がオリジナルグッズを発案・企画・提案し、全体の流れを通して図面の重要性を学びます。

受講上の注意

商品にはチラシやパンフレットがあります。その中には商品の説明、使用方法、価格など様々な情報が入っており消費者に購買意欲を持たせるための工夫がなされています。最後の課題は皆さんにオリジナルグッズを企画してもらい、図面とプレゼンボードにてプレゼンテーションをしてもらいます。商品のチラシを集めるなどして日頃から研究しておいて下さい。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
制作した図面、レポート、提出物	60
授業に取り組む姿勢	40

教科書情報

教科書1	作図法など必要な資料は配布します。		
出版社名		著者名	
教科書2			

出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	プロダクトデザインのための製図		
出版社名	日本出版サービス	著者名	清水吉治/川崎晃義
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
http://masaab.sakura.ne.jp			
特記事項			
教員実務経験			
作図を伴った工芸作品の制作経験の豊富な教員が指導を行います。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業説明:年間の計画、図面の必要性、製図の基本を知る(三面図、三角法、線の種類や役割)		
2	「練習問題」三面図の理解		
3	練習問題の回答「線の練習 1」T 定規の使い方、実線、破線		
4	「線の練習 2」一点鎖線、二点鎖線、特殊な線		
5	「姿図からの作図」正式な図面の書き方、枠線、表題など		
6	「姿図からの作図」レイアウト、外形線		

7	「姿図からの作図」引き出し線、寸法線、寸法記入→完成
8	「木槌の作図」木槌の採寸
9	「木槌の作図」レイアウトの為の下書き
10	「木槌の作図」枠線、表題
11	「木槌の作図」外形線、面取りや R の指定、断面図
12	「木槌の作図」引き出し線、寸法線、寸法記入→完成
13	「青銅の蓋物の作図」鑄金実習で制作中の作品を図面化します。原型を採寸→下書き
14	「青銅の蓋物の作図」枠線、表題、外形線、断面図
15	「青銅の蓋物の作図」引き出し線、寸法線、寸法記入→完成 次課題「中空構造の自由形態」課題説明
16	キャラクター人形の採寸→下書き
17	キャラクター人形の作図1
18	キャラクター人形の作図2
19	キャラクター人形の作図3
20	キャラクター人形レンダリング1
21	キャラクター人形レンダリング2 「オリジナルキャラクターグッズ」課題説明
22	「オリジナルキャラクターグッズの企画」アイデアスケッチ→アイデアチェック
23	「オリジナルキャラクターグッズの企画」油土原型制作
24	「オリジナルキャラクターグッズの企画」寸法採寸→下書き
25	「オリジナルキャラクターグッズの企画」作図1
26	「オリジナルキャラクターグッズの企画」作図2
27	「オリジナルキャラクターグッズの企画」作図3→完成
28	「オリジナルキャラクターグッズの企画」プレゼンボード制作1
29	「オリジナルキャラクターグッズの企画」プレゼンボード制作2→完成
30	「オリジナルキャラクターグッズの企画」プレゼンテーション、合評

科目名	工芸製図	年次	2	単位数	2
授業期間	2022年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	田中 雅文				
クラス名					
授業目的と到達目標					
アイデア相互理解、また製作を依頼(受注)する場合、その伝達には正確な図面が必須である。 基本的な製図法、陶磁器製図における図示法の理解と修得を図る。					
授業概要					
対面授業 基本的な製図法である正投影法の理解に始まり、図面を正しく読む・作図の手順を知る・図面の様式等を知る、更に陶磁器慣例図示法の理解を得る事により、陶磁器デザイン段階での正しい考察力を身に付ける。 また作図の中で、陶磁器の様々な機能に沿ったデザインを考察し、各形態に応じた図形・寸法の表し方を修得する。 これらの技術を習得することにより、将来ものづくりの現場で第三者とのアイデアの相互理解が深まり、より多方面での創作活動の発展を目指す。					
受講上の注意					
身の回りにある「やきもの」の形状や厚みなど図面を書く観点から観察する					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題提出			80		
受講姿勢			20		
教科書情報					
教科書1	「製図実習」セラミックコース				
出版社名	大阪芸術大学	著者名	南 和伸		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
{田中雅文 Official site, http://tanakamasafumi.sakura.ne.jp/index.html }			
特記事項			
陶磁器制作を専門とする中で素材の特質を活かしたより実践的な陶磁器製図、伝達方法を指導する。			
教員実務経験			
陶芸作家／陶磁器デザイナー。国内外での作品発表、展覧会、企業タイアップによる製品制作など。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	課題説明。陶芸における製図の概要、準備物等の説明		
2	製図の機能と役割(見やすい図面を作成する基本的な考え方) 製図用具の種類と使用法		
3	図面の大きさ様式、線の種類、文字の書き方 正投影法の理解、第一角法と第三角法の比較		
4	湯呑みの製図 1 完成品からの採寸		
5	湯呑みの製図 2 完成品からの作図		
6	湯呑みの製図 3 湯呑みをデザインする		
7	湯呑みの製図 4 製図作業		
8	湯呑みの製図 5 製図作業		

9	湯呑みの製図 6 完成
10	カップ&ソーサーの製図 1 デザインの考察
11	カップ&ソーサーの製図 2 製図作業
12	カップ&ソーサーの製図 3 製図作業
13	カップ&ソーサーの製図 4 製図作業
14	カップ&ソーサーの製図 5 製図作業
15	カップ&ソーサーの製図 6 完成
16	陶磁器慣例図示法、寸法補助記号、円弧の寸法記入法
17	ティーポットの製図 1 デザインの考察
18	ティーポットの製図 2 製図作業
19	ティーポットの製図 3 製図作業
20	ティーポットの製図 4 完成
21	1 面型鑄込み カップの制作 1 デザインの考察
22	1 面型鑄込み カップの制作 2 図面作成
23	1 面型鑄込み カップの制作 3 原型用ゲージの作成
24	1 面型鑄込み カップの制作 4 石膏原型制作
25	1 面型鑄込み カップの制作 5 石膏原型制作
26	1 面型鑄込み カップの制作 6 使用型制作
27	1 面型鑄込み カップの制作 7 使用型制作
28	1 面型鑄込み カップの制作 8 泥漿制作
29	1 面型鑄込み カップの制作 9 鑄込み作業
30	1 面型鑄込み カップの制作 10 生地完成 総括

科目名	工芸製図	年次	2	単位数	2
授業期間	2022年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	高橋 亜希、尾原 久永				
クラス名	【19生対象】				
授業目的と到達目標					
<p>(前期 尾原) デザイナーとして必要な製図の基礎知識を習得し、デジタルツールを応用出来るスキルを養う。 (後期 高橋) テキスタイル・染織コースでは、着物の裁ち方や洋服のパターンの知識も必要となる。後期は和裁の基本を習得することを目的とし、作品制作における構想やデザインをより具体的に描画できる能力を養う。 </p>					
授業概要					
<p>【対面授業】(前期 尾原) デザイン系ソフトを使った製図の基本からスタートし、部屋空間をレイアウトする平面図作成から簡単なパース図作成までを行う。 (後期 高橋) 着物の歴史について学び、自らが染色した浴衣地を用いて実際に浴衣を縫う。 </p>					
受講上の注意					
<p>受講、実習内容がより理解・習得できるように自己啓発すること。また、 遅刻・私語は慎むこと。 </p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出作品			80		
制作構想(平常授業態度、発表など含む)			20		
教科書情報					
教科書1	必要に応じてプリントを配布します。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					

参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
授業内容は予定であり、特別講義や展覧会見学などで変更する場合もある。			
教員実務経験			
(前期 尾原) デザイン制作会社を経営する教員が、実務経験を基に CG を活用したデザイン制作に必要な製図知識の指導をする。 (後期 高橋) 大阪市立クラフトパーク 織物指導員 合同会社 AkiOri テキスタイルデザイナー			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	前期 立体の表現方法、製図と CAD に関する基本的な説明。 デザイン系ソフト:Illustrator の説明。基本操作の実技。		
2	点・線・面の作図練習(基礎)		
3	点・線・面の作図練習(応用)		
4	身近な製品の 2D 製図作成【基本編】(1) スケッチから製図への展開		
5	身近な製品の 2D 製図作成【基本編】(2) 線画ツールの習得		
6	身近な製品の 2D 製図作成【基本編】(3) 線画ツールの習得		
7	身近な製品の 2D 製図作成【応用編】(1) 面処理の習得		
8	身近な製品の 2D 製図作成【応用編】(2) 面処理の習得と立体表現		

9	身近な製品の 2D 製図作成【応用編】(3) 平面図と立面図の制作
10	住空間の平面図作成(1) 平面図の制作
11	住空間の平面図作成(2) 平面図と立面図の制作
12	製図実習(1) 居住空間における実寸把握作図習得
13	製図実習(2) 居住空間における実寸把握作図習得
14	製図実習(3) 居住空間における実寸把握作図習得
15	合評・総評
16	後期 着物についての歴史的考察(スライドを中心として)
17	反物(浴衣地)の上に各部のサイズを記入する
18	反物(浴衣地)の上に各部のサイズを記入する
19	袖を縫うことから始める
20	身頃を縫う
21	身頃を縫う
22	脇を縫う
23	脇を縫う
24	衿を縫う
25	衿を縫う
26	衿をつける
27	袖をつける
28	細部の仕上げ 着物のたたみ方を学ぶ 小下絵を描く(自分が着たい着物、染めたい着物、織りたい着物を想定して模様を描く)
29	日本と西洋の衣服の違いを知り構造を確かめる
30	各自の縫った浴衣を着用してプレゼンテーション 合評

科目名	染織表現実習	年次	2	単位数	4
授業期間	2022年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	竹垣 恵子、舘 正明				
クラス名					
授業目的と到達目標					
主に送りの基礎と1枚型での表現を学び、型技法による各自の表現力を養う(竹垣) ろう染めによる表現方法を学び、技法の理解と技術の習得、及びそれらの自己表現への反映を目指す(舘)					
授業概要					
【対面授業】型染めとシルクスクリーン(写真製版法)による作品制作から、送りの基礎を学ぶ。また1枚型による型染め作品制作を行う。(竹垣) スケッチ、下絵、染色と三段階のプロセスを踏むことで、スケッチを作品へと昇華させ、絵画的なろう染め作品を制作する(舘)					
受講上の注意					
授業時間において指示された準備物及び資料等は必ず持参すること。実習に適した服装で出席すること					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出作品			80		
授業の取り組みへの姿勢			20		
教科書情報					
教科書1	適宜プリントを配布する				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
(竹垣)染色による作品制作で活動する作家が担当する。(館)ろう染めによる作品制作で活動する作家が担当する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業全体の説明 第一課題「1枚型」(黒色差し)の課題説明 プランニング・型紙下絵作り		
2	型彫り・糊置き		
3	黒色差し・フィキサー処理・ソーピング		
4	各色色差し		
5	各色色差し フィキサー処理・ソーピング		
6	第2課題「1枚型」(防染糊)の説明 モチーフスケッチ・プランニング		
7	型彫り・糊置き		
8	色差し・蒸しによる後処理・糊落とし		
9	第3課題「シルクスクリーン(写真製版法・顔料)」の説明 モチーフスケッチ・プランニング		
10	原画フィルム作り・写真製版 プリント		
11	第4課題「合わせ型」(捺染)の説明 プランニング・型紙下絵作り		

12	型彫り・色彩計画
13	捺染
14	捺染・フィキサー処理・ソーピング
15	合評
16	後期授業及びろう染め作品についての説明 第1課題 スケッチを基礎とするろう染め制作 色面構成、原寸草稿
17	第1課題 スケッチを基礎とするろう染め制作 トレース、基本的な制作工程の説明、染色工程開始
18	第1課題 スケッチを基礎とするろう染め制作 染色工程 ろう置き、染色の繰り返し 第2課題 写真を基礎とするろう染め制作 アイデアスケッチ
19	第1課題 スケッチを基礎とするろう染め制作 脱ろうソーピング・合評 第2課題 写真を基礎とするろう染め制作 色草稿
20	第2課題 写真を基礎とするろう染め制作 原寸草稿
21	第2課題 写真を基礎とするろう染め制作 トレース、染色工程開始
22	第2課題 写真を基礎とするろう染め制作 染色工程 ろう置き、染色の繰り返し 第3課題 与えられたテーマによるろう染め制作 アイデアスケッチ
23	第2課題 写真を基礎とするろう染め制作 染色工程 ろう置き、染色の繰り返し 第3課題 与えられたテーマによるろう染め制作 色草稿
24	第2課題 写真を基礎とするろう染め制作 脱ろうソーピング・合評 第3課題 与えられたテーマによるろう染め制作 原寸草稿
25	第3課題 与えられたテーマによるろう染め制作 トレース・染色工程開始
26	第3課題 与えられたテーマによるろう染め制作 染色工程 ろう置き、染色の繰り返し
27	第3課題 与えられたテーマによるろう染め制作 染色工程 ろう置き、染色の繰り返し
28	第3課題 与えられたテーマによるろう染め制作 染色工程脱ろう ソーピング
29	表装 パネル張り
30	合評

科目名	造形芸術演習 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	加藤 隆明				
クラス名					
授業目的と到達目標					
キャラクター造形学科と写真学科の再履修者のクラス。 現実空間での表現の特徴と表現方法を 2 次元との差により理解し制作する。					
授業概要					
課題は 3 作品であるが、各自の内容と技術力に対応して授業を進める。 【人型の造形】【レリーフペインティング】【ボックスアート】は基礎に置くが、それ以外の展開も学生により考えている。					
受講上の注意					
常に日常での社会的出来事やアートニュースには注意し、できるだけ専門性高い作品には触れておく。美術館、博物館など以外に幅広く知識を広げることも必要。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
3課題の提出で採点を行う。			0		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
造形活動の経験を生かす。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業ガイダンスを行う。 人型針金を粘土で肉付けし人型のイメージを制作する。 ポーズや写実的筋肉、デフォルメの身体など複数の角度から身体をイメージし制作する。(クロッキー帖を各自持参する。)		
2	第一課題【人型の造形】人型針金を粘土で肉付けし人型のイメージを制作する。 ポーズや写実的筋肉、デフォルメの身体など複数の角度から身体をイメージし制作する。 制作したい人型のイメージデッサンをする。(クロッキー帖を各自用意する。)		
3	第一課題【人型の造形】の作業を続ける。 初めて立体を制作する学生も多いようだ。 写真という作業は三次元世界を二次元のイメージに変換する作業でもある。 三次元世界の触覚性を意識するようになる。		
4	第一課題【人型の造形】 順次作品の採点をつける。 作品提示とともに、制作内容と結果について説明をする。		
5	第二課題【レリーフペインティング】 市販されている素材を使用し制作をする。 表現の基礎でもある「音楽から造形に」の造形作品を制作する。 この課題では抽象画、抽象表現主義等の作品の説明を資料等とする。 かなり困難ではあるが、完成時のイメージデッサンを行う。		

6	第二課題【レリーフペインティング】 イメージデッサン後は各部位に着彩作業を行う。 着彩が終わったら部位を組み上げていく。組み上げていく時は木工ボンド等を使用する。 接着時間を考慮して、制作スケジュールを各自で考える。
7	第二課題【レリーフペインティング】 この課題は学生にとって今までに経験がないようで作業に手間取るようだ。 ただ抽象概念の思考、制作なので必要である。
8	第二課題【レリーフペインティング】 レリーフペインティングの制作続行。
9	第二課題【レリーフペインティング】 制作完成した学生から作品を壁に展示し作品の見え方等を説明してもらう。 その後採点する。 学生1人 10 分程度の時間が必要となる。
10	第二課題【レリーフペインティング】 制作完成した学生から作品を壁に展示し作品の見え方等を説明してもらう。 その後採点する。 学生1人 10 分程度の時間が必要となる。
11	第三課題【ボックスアート】 なじみのある作品形式である。 厚みのあるボードを切断側面のない箱を制作する。その中に3次元空間を生かした画面を制作する。 自分が制作したい世界観をイメージデッサンにして、素材を選択し構成することによりつくる。 最初ジョセフ・コーネルの作品の説明を行う。あと各自イメージデッサンの制作。
12	第三課題【ボックスアート】 継続して制作を続ける。 箱内部の空間にどのように配置するかその効果などは個人指導になる
13	第三課題【ボックスアート】 採点を始める。今までの課題採点と同様、作品を挟み学生との質疑応答により採点をしていく。
14	第三課題【ボックスアート】 採点を始める。今までの課題採点と同様、作品を挟み学生との質疑応答により採点をしていく。
15	第三課題【ボックスアート】 採点を始める。今までの課題採点と同様、作品を挟み学生との質疑応答により採点をしていく。

科目名	造形芸術演習 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	加藤 隆明				
クラス名	写真学科				

授業目的と到達目標

基本的な 3 次元空間の把握に努める。これは 2 次元空間表現(写真や漫画、絵画など)と比較することで理解する。制作課題を通して経験していく。学生数や時間的制限があるため、学生の状況や理解度、技術力などを確認しながら授業を進める。

授業概要

授業では、実技的要素があり道具の使用方法や素材の特性など指導する。作品評価には作品意図の説明とそれが作品から読み解けるかを対話しながら判断する。造形作品を制作してきた経験で、作品のコンセプト制作、コンテキストや色彩の意義、イメージの解釈等の能力が養われる必要を感じている。それを重要視した内容にする。

受講上の注意

常に日常での社会的出来事やアートニュースには注意し、できるだけ専門性高い作品には触れておく。美術館、博物館など以外に幅広く知識を広げることも必要。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題 3 作品提出で評価する。	0

教科書情報

教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
造形活動、作家の経験を生かす。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業ガイダンスを行う。 人型針金を粘土で肉付けし人型のイメージを制作する。 ポーズや写実的筋肉、デフォルメの身体など複数の角度から身体をイメージし制作する。(クロッキー帖を各自持参する。)		
2	第一課題【人型の造形】人型針金を粘土で肉付けし人型のイメージを制作する。 ポーズや写実的筋肉、デフォルメの身体など複数の角度から身体をイメージし制作する。 制作したい人型のイメージデッサンをする。(クロッキー帖を各自用意する。)		
3	第一課題【人型の造形】の作業を続ける。 初めて立体を制作する学生も多いようだ。 写真という作業は三次元世界を二次元のイメージに変換する作業でもある。 三次元世界の触覚性を意識するようになる。		
4	第一課題【人型の造形】 順次作品の採点をつける。 作品提示とともに、制作内容と結果について説明をする。		

5	第二課題【レリーフペインティング】市販されている素材を使用し制作をする。 表現の基礎でもある「音楽から造形に」の造形作品を制作する。 この課題では抽象画、抽象表現主義等の作品の説明を資料等でする。 かなり困難ではあるが、完成時のイメージデッサンを行う。
6	第二課題【レリーフペインティング】 イメージデッサン後は各部位に着彩作業を行う。 着彩が終わったら部位を組み上げていく。組み上げていく時は木工ボンド等を使用する。 接着時間を考慮して、制作スケジュールを各自で考える。
7	第二課題【レリーフペインティング】 この課題は学生にとって今までに経験がないようで作業に手間取るようだ。 ただ抽象概念の思考、制作なので必要である。
8	第二課題【レリーフペインティング】 レリーフペインティングの制作続行。
9	第二課題【レリーフペインティング】 制作完成した学生から作品を壁に展示し作品の見え方等を説明してもらおう。 その後採点する。 学生1人 10 分程度の時間が必要となる。
10	第二課題【レリーフペインティング】 制作完成した学生から作品を壁に展示し作品の見え方等を説明してもらおう。 その後採点する。 学生1人 10 分程度の時間が必要となる。
11	第三課題【ボックスアート】なじみのある作品形式である。 厚みのあるボードを切断側面のない箱を制作する。その中に 3 次元空間を生かした画面を制作する。 自分が制作したい世界観をイメージデッサンにして、素材を選択し構成することによりつくる。 最初ジョセフ・コーネルの作品の説明を行う。あと各自イメージデッサンの制作。
12	第三課題【ボックスアート】 写真学科の学生はドローイング、デッサン、着彩が初めての学生もいるので、写真を生かした表現も可能。
13	第三課題【ボックスアート】 継続して制作を続ける。 箱内部の空間にどのように配置するかその効果などは個人指導になる。
14	第三課題【ボックスアート】 採点を始める。今までの課題採点と同様、作品を挟み学生との質疑応答により採点をしていく。
15	第三課題【ボックスアート】 採点を始める。今までの課題採点と同様、作品を挟み学生との質疑応答により採点をしていく。

科目名	造形芸術演習 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	金田 恵美子				
クラス名	必須学科以外				

授業目的と到達目標

造形芸術の表現における種々な「素材」と「技法」を研究し、修得する。|又感性の向上にも心掛け、多様な表現分野に挑戦し、体得する事を目的とする。|

授業概要

【対面授業】|現代社会において、表象的な面が優先し、直接的な関わり合いが希薄になっている。作品の制作過程において、積極的に自己に関わらせ、素材と葛藤し、自己とも葛藤する事により、自分の「目」の確かさ・不確かさ、「手」の確かさ、不確かさを実感してもらいたい。|又、各自の 専門分野に囚われず、広い視野に立ち、柔軟な発想力を持ち、制作意図・制作過程にも主眼を置いて、種々な表現に挑戦してもらいたいと考える。|

受講上の注意

・まず造形領域に強い関心を持つ事。|・授業に積極的に関わりを持つ事。|・制作に対して真摯に取り組む事。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
提出作品の完成度及び制作過程における態度を含め総合的に評価する。	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
40年弱の大学での造形の基礎教育の実務経験を持つ。 専門領域に偏重せず、幅広い造形知識を教授する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業内容(最終回までの進行状況)の説明と諸注意		
2	白い紙を用いた造形 紙の特質／加工方法の習得 各自選択したテーマに沿って、身近にある白い紙を材料として、立体を制作する。 (A)そっくりそのまま実物大で作る。 (B)各自独自性を生かして制作する。		
3	白い紙を用いた造形 紙の特質／加工方法の習得 各自選択したテーマに沿って、身近にある白い紙を材料として、立体を制作する。 (A)そっくりそのまま実物大で作る。 (B)各自独自性を生かして制作する。		
4	白い紙を用いた造形 紙の特質／加工方法の習得 各自選択したテーマに沿って、身近にある白い紙を材料として、立体を制作する。 (A)そっくりそのまま実物大で作る。 (B)各自独自性を生かして制作する。		

5	粘土を用いた造形 各自が選択したモチーフを形態／色彩共に模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。 形そのものは当然のごとく、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。 乾燥後、色の再現へ移行する。 モチーフ自体をしのぐほどの完成度を目標とする。
6	粘土を用いた造形 各自が選択したモチーフを形態／色彩共に模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。 形そのものは当然のごとく、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。 乾燥後、色の再現へ移行する。 モチーフ自体をしのぐほどの完成度を目標とする。
7	粘土を用いた造形 各自が選択したモチーフを形態／色彩共に模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。 形そのものは当然のごとく、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。 乾燥後、色の再現へ移行する。 モチーフ自体をしのぐほどの完成度を目標とする。
8	金属素材を用いた造形 針金を用いた線の集積における造形に挑戦する。 具体的なモチーフの造形にとどまらず、生活の中に潤いを与えるオブジェとしての作品も範疇に入れ、創造性豊かな作品作りに挑戦する。
9	金属素材を用いた造形 針金を用いた線の集積における造形に挑戦する。 具体的なモチーフの造形にとどまらず、生活の中に潤いを与えるオブジェとしての作品も範疇に入れ、創造性豊かな作品作りに挑戦する。
10	金属素材を用いた造形 針金を用いた線の集積における造形に挑戦する。 具体的なモチーフの造形にとどまらず、生活の中に潤いを与えるオブジェとしての作品も範疇に入れ、創造性豊かな作品作りに挑戦する。
11	複合素材を用いた造形 各自自分のテーマを設定し、それに基づいた素材を探す。 必ず2つ以上の素材を使いこなすことを条件とする。 大きさは30×30(cm)前後。 独自の創造性豊かな作品作りに挑戦する。
12	複合素材を用いた造形 各自自分のテーマを設定し、それに基づいた素材を探す。 必ず2つ以上の素材を使いこなすことを条件とする。 大きさは30×30(cm)前後。 独自の創造性豊かな作品作りに挑戦する。
13	複合素材を用いた造形 各自自分のテーマを設定し、それに基づいた素材を探す。 必ず2つ以上の素材を使いこなすことを条件とする。 大きさは30×30(cm)前後。 独自の創造性豊かな作品作りに挑戦する。
14	複合素材を用いた造形 各自自分のテーマを設定し、それに基づいた素材を探す。 必ず2つ以上の素材を使いこなすことを条件とする。 大きさは30×30(cm)前後。 独自の創造性豊かな作品作りに挑戦する。
15	合評

科目名	造形芸術演習 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	金田 恵美子				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標

造形芸術の表現における種々な「素材」と「技法」を研究し、修得する。|又感性の向上にも心掛け、多様な表現分野に挑戦し、体得する事を目的とする。|

授業概要

【対面授業】|現代社会において、表象的な面が優先し、直接的な関わり合いが希薄になっている。作品の制作過程において、積極的に自己に関わらせ、素材と葛藤し、自己とも葛藤する事により、自分の「目」の確かさ・不確かさ、「手」の確かさ、不確かさを実感してもらいたい。又、各自の 専門分野に囚われず、広い視野に立ち、柔軟な発想力を持ち、制作意図・制作過程にも主眼を置いて、種々な表現に挑戦してもらいたいと考える。|

受講上の注意

・まず造形領域に強い関心を持つ事。|・授業に積極的に関わりを持つ事。|・制作に対して真摯に取り組む事。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
提出作品の完成度及び制作過程における態度を含め総合的に評価する。	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
40年弱の大学での造形の基礎教育の実務経験を持つ。 専門領域に偏重せず、幅広い造形知識を教授する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業内容(最終回までの進行状況)の説明と諸注意		
2	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具(顔料)を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。		
3	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具(顔料)を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。		
4	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具(顔料)を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。		

5	平面Ⅱ—モノクロームの世界 平面の基礎となる「美的形式原理」の理解のためのトレーニングを行う。次週の制作に向けての下準備に取り組む。
6	平面Ⅱ—モノクロームの世界 既成の「筆」を用いず、日常生活の中に存在する「物」を描写道具とし、墨を用いてモノクロームの表現に挑戦する。
7	平面Ⅲ—技法の世界 濃度の高い鉛筆のみを描画材料として、様々な技法を駆使し、鉛筆独自の表材感と鉛色の世界に挑戦する【B1 1点作品提出】
8	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
9	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
10	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
11	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
12	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
13	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
14	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
15	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。

科目名	造形芸術演習 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	金田 恵美子				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標

造形芸術の表現における種々な「素材」と「技法」を研究し、修得する。|又感性の向上にも心掛け、多様な表現分野に挑戦し、体得する事を目的とする。|

授業概要

【対面授業】|現代社会において、表象的な面が優先し、直接的な関わり合いが希薄になっている。作品の制作過程において、積極的に自己に関わらせ、素材と葛藤し、自己とも葛藤する事により、自分の「目」の確かさ・不確かさ、「手」の確かさ、不確かさを実感してもらいたい。又、各自の 専門分野に囚われず、広い視野に立ち、柔軟な発想力を持ち、制作意図・制作過程にも主眼を置いて、種々な表現に挑戦してもらいたいと考える。|

受講上の注意

・まず造形領域に強い関心を持つ事。|・授業に積極的に関わりを持つ事。|・制作に対して真摯に取り組む事。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
提出作品の完成度及び制作過程における態度を含め総合的に評価する。	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
40年弱の大学での造形の基礎教育の実務経験を持つ。 専門領域に偏重せず、幅広い造形知識を教授する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業内容(最終回までの進行状況)の説明と諸注意		
2	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具(顔料)を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。		
3	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具(顔料)を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。		
4	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具(顔料)を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。		

5	平面Ⅱ—モノクロームの世界 平面の基礎となる「美的形式原理」の理解のためのトレーニングを行う。次週の制作に向けての下準備に取り組む。
6	平面Ⅱ—モノクロームの世界 既成の「筆」を用いず、日常生活の中に存在する「物」を描写道具とし、墨を用いてモノクロームの表現に挑戦する。
7	平面Ⅲ—技法の世界 濃度の高い鉛筆のみを描画材料として、様々な技法を駆使し、鉛筆独特の表材感と鉛色の世界に挑戦する【B1 1点作品提出】
8	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
9	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
10	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
11	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
12	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
13	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
14	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
15	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。

科目名	造形芸術演習 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	加藤 隆明				
クラス名	キャラクター造形学科				

授業目的と到達目標

基本的な3次元空間の把握に努める。これは2次元空間表現(写真や漫画、アニメ、絵画など)と比較することで理解する。制作課題を通して経験していく。学生数や時間的制限があるため、学生の状況や理解度、技術力などを確認しながら授業を進める。

授業概要

授業では、実技的要素があり道具の使用方法や素材の特性など指導する。作品評価には作品意図の説明とそれが作品から読み解けるかを対話しながら判断する。造形作品を制作してきた経験で、作品のコンセプト制作、コンテキストや色彩の意義、イメージの解釈等の能力が養われる必要を感じている。それを重要視した内容にする。

受講上の注意

常に日常での社会的出来事やアートニュースには注意し、できるだけ専門性高い作品には触れておく。美術館、博物館など以外に幅広く知識を広げることも必要。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題3作品の提出で評価する。	0

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
造形活動、作家経験を生かす。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業ガイダンスを行う。 人型針金を粘土で肉付けし人型のイメージを制作する。 ポーズや写実的筋肉、デフォルメの身体など複数の角度から身体をイメージし制作する。(クロッキー帖を各自持参する。)		
2	第一課題【人型の造形】人型針金を粘土で肉付けし人型のイメージを制作する。 ポーズや写実的筋肉、デフォルメの身体など複数の角度から身体をイメージし制作する。 制作したい人型のイメージデッサンをする。(クロッキー帖を各自用意する。)		
3	第一課題【人型の造形】の作業を続ける。 初めて立体を制作する学生も多いようだ。 写真という作業は三次元世界を二次元のイメージに変換する作業でもある。 三次元世界の触覚性を意識するようになる。		
4	第一課題【人型の造形】 順次作品の採点をつける。 作品提示とともに、制作内容と結果について説明をする。		

5	第二課題【レリーフペインティング】市販されている素材を使用し制作をする。 表現の基礎でもある「音楽から造形に」の造形作品を制作する。 この課題では抽象画、抽象表現主義等の作品の説明を資料等でする。 かなり困難ではあるが、完成時のイメージデッサンを行う。
6	第二課題【レリーフペインティング】 イメージデッサン後は各部位に着彩作業を行う。 着彩が終わったら部位を組み上げていく。組み上げていく時は木工ボンド等を使用する。 接着時間を考慮して、制作スケジュールを各自で考える。
7	第二課題【レリーフペインティング】 この課題は学生にとって今までに経験がないようで作業に手間取るようだ。 ただ抽象概念の思考、制作なので必要である。
8	第二課題【レリーフペインティング】 レリーフペインティングの制作続行。
9	第二課題【レリーフペインティング】 制作完成した学生から作品を壁に展示し作品の見え方等を説明してもらおう。 その後採点する。 学生1人 10 分程度の時間が必要となる。
10	第二課題【レリーフペインティング】 制作完成した学生から作品を壁に展示し作品の見え方等を説明してもらおう。 その後採点する。 学生1人 10 分程度の時間が必要となる。
11	第三課題【ボックスアート】なじみのある作品形式である。 厚みのあるボードを切断側面のない箱を制作する。その中に 3 次元空間を生かした画面を制作する。 自分が制作したい世界観をイメージデッサンにして、素材を選択し構成することによりつくる。 最初ジョセフ・コーネルの作品の説明を行う。あと各自イメージデッサンの制作。
12	第三課題【ボックスアート】 継続して制作を続ける。 箱内部の空間にどのように配置するかその効果などは個人指導になる。
13	第三課題【ボックスアート】 採点を始める。今までの課題採点と同様、作品を挟み学生との質疑応答により採点をしていく。
14	第三課題【ボックスアート】 採点を始める。今までの課題採点と同様、作品を挟み学生との質疑応答により採点をしていく。
15	第三課題【ボックスアート】 採点を始める。今までの課題採点と同様、作品を挟み学生との質疑応答により採点をしていく。

科目名	造形芸術演習 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	加藤 隆明				
クラス名	キャラクター造形学科				

授業目的と到達目標

基本的な 3 次元空間の把握に努める。これは 2 次元空間表現(写真や漫画、アニメ、絵画など)と比較することで理解する。制作課題を通して経験していく。学生数や時間的制限があるため、学生の状況や理解度、技術力などを確認しながら授業を進める。

授業概要

授業では、実技的要素があり道具の使用方法や素材の特性など指導する。作品評価には作品意図の説明とそれが作品から読み解けるかを対話しながら判断する。造形作品を制作してきた経験で、作品のコンセプト制作、コンテキストや色彩の意義、イメージの解釈等の能力が養われる必要を感じている。それを重要視した内容にする。

受講上の注意

常に日常での社会的出来事やアートニュースには注意し、できるだけ専門性高い作品には触れておく。美術館、博物館など以外に幅広く知識を広げることも必要。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題3作品の提出で評価する。	0

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
造形活動、作家経験を生かす。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業ガイダンスを行う。 人型針金を粘土で肉付けし人型のイメージを制作する。 ポーズや写実的筋肉、デフォルメの身体など複数の角度から身体をイメージし制作する。(クロッキー帖を各自持参する。)		
2	第一課題【人型の造形】人型針金を粘土で肉付けし人型のイメージを制作する。 ポーズや写実的筋肉、デフォルメの身体など複数の角度から身体をイメージし制作する。 制作したい人型のイメージデッサンをする。(クロッキー帖を各自用意する。)		
3	第一課題【人型の造形】の作業を続ける。 初めて立体を制作する学生も多いようだ。 写真という作業は三次元世界を二次元のイメージに変換する作業でもある。 三次元世界の触覚性を意識するようになる。		
4	第一課題【人型の造形】 順次作品の採点をつける。 作品提示とともに、制作内容と結果について説明をする。		

5	第二課題【レリーフペインティング】市販されている素材を使用し制作をする。 表現の基礎でもある「音楽から造形に」の造形作品を制作する。 この課題では抽象画、抽象表現主義等の作品の説明を資料等でする。 かなり困難ではあるが、完成時のイメージデッサンを行う。
6	第二課題【レリーフペインティング】 イメージデッサン後は各部位に着彩作業を行う。 着彩が終わったら部位を組み上げていく。組み上げていく時は木工ボンド等を使用する。 接着時間を考慮して、制作スケジュールを各自で考える。
7	第二課題【レリーフペインティング】 この課題は学生にとって今までに経験がないようで作業に手間取るようだ。 ただ抽象概念の思考、制作なので必要である。
8	第二課題【レリーフペインティング】 レリーフペインティングの制作続行。
9	第二課題【レリーフペインティング】 制作完成した学生から作品を壁に展示し作品の見え方等を説明してもらおう。 その後採点する。 学生1人 10 分程度の時間が必要となる。
10	第二課題【レリーフペインティング】 制作完成した学生から作品を壁に展示し作品の見え方等を説明してもらおう。 その後採点する。 学生1人 10 分程度の時間が必要となる。
11	第三課題【ボックスアート】なじみのある作品形式である。 厚みのあるボードを切断側面のない箱を制作する。その中に 3 次元空間を生かした画面を制作する。 自分が制作したい世界観をイメージデッサンにして、素材を選択し構成することによりつくる。 最初ジョセフ・コーネルの作品の説明を行う。あと各自イメージデッサンの制作。
12	第三課題【ボックスアート】 継続して制作を続ける。 箱内部の空間にどのように配置するかその効果などは個人指導になる。
13	第三課題【ボックスアート】 採点を始める。今までの課題採点と同様、作品を挟み学生との質疑応答により採点をしていく。
14	第三課題【ボックスアート】 採点を始める。今までの課題採点と同様、作品を挟み学生との質疑応答により採点をしていく。
15	第三課題【ボックスアート】 採点を始める。今までの課題採点と同様、作品を挟み学生との質疑応答により採点をしていく。

科目名	造形芸術演習 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	加藤 隆明				
クラス名	キャラクター造形学科				

授業目的と到達目標

基本的な 3 次元空間の把握に努める。これは 2 次元空間表現(写真や漫画、アニメ、絵画など)と比較することで理解する。制作課題を通して経験していく。学生数や時間的制限があるため、学生の状況や理解度、技術力などを確認しながら授業を進める。

授業概要

授業では、実技的要素があり道具の使用方法や素材の特性など指導する。作品評価には作品意図の説明とそれが作品から読み解けるかを対話しながら判断する。造形作品を制作してきた経験で、作品のコンセプト制作、コンテキストや色彩の意義、イメージの解釈等の能力が養われる必要を感じている。それを重要視した内容にする。

受講上の注意

常に日常での社会的出来事やアートニュースには注意し、できるだけ専門性高い作品には触れておく。美術館、博物館など以外に幅広く知識を広げることも必要。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題3作品提出で採点をする。	0

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業ガイダンスを行う。 人型針金を粘土で肉付けし人型のイメージを制作する。 ポーズや写実的筋肉、デフォルメの身体など複数の角度から身体をイメージし制作する。(クロッキー帖を各自持参する。)		
2	第一課題【人型の造形】人型針金を粘土で肉付けし人型のイメージを制作する。 ポーズや写実的筋肉、デフォルメの身体など複数の角度から身体をイメージし制作する。 制作したい人型のイメージデッサンをする。(クロッキー帖を各自用意する。)		
3	第一課題【人型の造形】の作業を続ける。 初めて立体を制作する学生も多いようだ。 写真という作業は三次元世界を二次元のイメージに変換する作業でもある。 三次元世界の触覚性を意識するようにする。		
4	第一課題【人型の造形】 順次作品の採点をつける。 作品提示とともに、制作内容と結果について説明をする。		

5	第二課題【レリーフペインティング】市販されている素材を使用し制作をする。 表現の基礎でもある「音楽から造形に」の造形作品を制作する。 この課題では抽象画、抽象表現主義等の作品の説明を資料等でする。 かなり困難ではあるが、完成時のイメージデッサンを行う。
6	第二課題【レリーフペインティング】 イメージデッサン後は各部位に着彩作業を行う。 着彩が終わったら部位を組み上げていく。組み上げていく時は木工ボンド等を使用する。 接着時間を考慮して、制作スケジュールを各自で考える。
7	第二課題【レリーフペインティング】 この課題は学生にとって今までに経験がないようで作業に手間取るようだ。 ただ抽象概念の思考、制作なので必要である。
8	第二課題【レリーフペインティング】 レリーフペインティングの制作続行。
9	第二課題【レリーフペインティング】 制作完成した学生から作品を壁に展示し作品の見え方等を説明してもらおう。 その後採点する。 学生1人 10 分程度の時間が必要となる。
10	第二課題【レリーフペインティング】 制作完成した学生から作品を壁に展示し作品の見え方等を説明してもらおう。 その後採点する。 学生1人 10 分程度の時間が必要となる。
11	第三課題【ボックスアート】なじみのある作品形式である。 厚みのあるボードを切断側面のない箱を制作する。その中に 3 次元空間を生かした画面を制作する。 自分が制作したい世界観をイメージデッサンにして、素材を選択し構成することによりつくる。 最初ジョセフ・コーネルの作品の説明を行う。あと各自イメージデッサンの制作。
12	第三課題【ボックスアート】 継続して制作を続ける。 箱内部の空間にどのように配置するかその効果などは個人指導になる。
13	第三課題【ボックスアート】 採点を始める。今までの課題採点と同様、作品を挟み学生との質疑応答により採点をしていく。
14	第三課題【ボックスアート】 採点を始める。今までの課題採点と同様、作品を挟み学生との質疑応答により採点をしていく。
15	第三課題【ボックスアート】 採点を始める。今までの課題採点と同様、作品を挟み学生との質疑応答により採点をしていく。

科目名	造形芸術演習 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	加藤 隆明				
クラス名	キャラクター造形学科				

授業目的と到達目標

基本的な 3 次元空間の把握に努める。これは 2 次元空間表現(写真や漫画、アニメ、絵画など)と比較することで理解する。制作課題を通して経験していく。学生数や時間的制限があるため、学生の状況や理解度、技術力などを確認しながら授業を進める。

授業概要

授業では、実技的要素があり道具の使用方法や素材の特性など指導する。作品評価には作品意図の説明とそれが作品から読み解けるかを対話しながら判断する。造形作品を制作してきた経験で、作品のコンセプト制作、コンテキストや色彩の意義、イメージの解釈等の能力が養われる必要を感じている。それを重要視した内容にする。

受講上の注意

常に日常での社会的出来事やアートニュースには注意し、できるだけ専門性高い作品には触れておく。美術館、博物館など以外に幅広く知識を広げることも必要。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題3作品提出で採点をする。	0

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業ガイダンスを行う。 人型針金を粘土で肉付けし人型のイメージを制作する。 ポーズや写実的筋肉、デフォルメの身体など複数の角度から身体をイメージし制作する。(クロッキー帖を各自持参する。)		
2	第一課題【人型の造形】人型針金を粘土で肉付けし人型のイメージを制作する。 ポーズや写実的筋肉、デフォルメの身体など複数の角度から身体をイメージし制作する。 制作したい人型のイメージデッサンをする。(クロッキー帖を各自用意する。)		
3	第一課題【人型の造形】の作業を続ける。 初めて立体を制作する学生も多いようだ。 写真という作業は三次元世界を二次元のイメージに変換する作業でもある。 三次元世界の触覚性を意識するようにする。		
4	第一課題【人型の造形】 順次作品の採点をつける。 作品提示とともに、制作内容と結果について説明をする。		

5	第二課題【レリーフペインティング】市販されている素材を使用し制作をする。 表現の基礎でもある「音楽から造形に」の造形作品を制作する。 この課題では抽象画、抽象表現主義等の作品の説明を資料等でする。 かなり困難ではあるが、完成時のイメージデッサンを行う。
6	第二課題【レリーフペインティング】 イメージデッサン後は各部位に着彩作業を行う。 着彩が終わったら部位を組み上げていく。組み上げていく時は木工ボンド等を使用する。 接着時間を考慮して、制作スケジュールを各自で考える。
7	第二課題【レリーフペインティング】 この課題は学生にとって今までに経験がないようで作業に手間取るようだ。 ただ抽象概念の思考、制作なので必要である。
8	第二課題【レリーフペインティング】 レリーフペインティングの制作続行。
9	第二課題【レリーフペインティング】 制作完成した学生から作品を壁に展示し作品の見え方等を説明してもらおう。 その後採点する。 学生1人 10 分程度の時間が必要となる。
10	第二課題【レリーフペインティング】 制作完成した学生から作品を壁に展示し作品の見え方等を説明してもらおう。 その後採点する。 学生1人 10 分程度の時間が必要となる。
11	第三課題【ボックスアート】なじみのある作品形式である。 厚みのあるボードを切断側面のない箱を制作する。その中に 3 次元空間を生かした画面を制作する。 自分が制作したい世界観をイメージデッサンにして、素材を選択し構成することによりつくる。 最初ジョセフ・コーネルの作品の説明を行う。あと各自イメージデッサンの制作。
12	第三課題【ボックスアート】 継続して制作を続ける。 箱内部の空間にどのように配置するかその効果などは個人指導になる。
13	第三課題【ボックスアート】 採点を始める。今までの課題採点と同様、作品を挟み学生との質疑応答により採点をしていく。
14	第三課題【ボックスアート】 採点を始める。今までの課題採点と同様、作品を挟み学生との質疑応答により採点をしていく。
15	第三課題【ボックスアート】 採点を始める。今までの課題採点と同様、作品を挟み学生との質疑応答により採点をしていく。

科目名	造形芸術演習 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	杉井 啓三				
クラス名	キャラクター造形学科クラス				

授業目的と到達目標

課題の制作を通して二次元表現と三次元表現を比較、理解し、|基本的な三次元の造形力、空間の把握を目標にする。|個々の得意分野、理解度、技術力などを確認しながら授業を進める。|

授業概要

対面授業|コロナ感染予防として消毒、換気、マスク着用したうえで、教室の大きさと学生数のバランスを考慮し、|対面授業を行う。|粘土やイラストボードなどの素材を用いた課題を 3 点制作する。|制作のための道具の使用方法や素材の特性などを指導する。|造形能力だけでなく、作品のコンセプト、イメージや色彩の意義、解釈、世界観を重要視しながら制作する。|

受講上の注意

準備用具の忘れ物に注意すること。|授業に積極的に関わりを持つこと。|自身が好きな分野だけではなく、日常での出来事や芸術のニュースに幅広く注意しておく。|美術館や博物館に行き、実物を見る。|学内の情報センターや体育館ギャラリー、ハルカスキャンパスのギャラリーなどでも様々なジャンルの作品が展示されるのでチェックしておくこと。|

成績評価方法・基準

種別	割合 (%)
課題の完成度	80
授業に取り組む姿勢	20

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
参考資料を配布し、その都度説明しながら行なう。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 過去の参考作品を見ながら 授業の流れ、課題内容、準備用具を説明する。		
2	課題1 粘土課題 人体のポーズ アイデアを決め、与えられたモデル人形にポーズをつけ粘土で肉付けしてイメージを具現化する。 平面の作品とはちがい、立体になれば無視できない重量、重心、強度などを考えながら制作する。		
3	課題1 粘土課題 人体のポーズ 制作 完成度を高めていく		
4	課題1 粘土課題 人体のポーズ 制作 完成度を高めていく		
5	課題1 粘土課題 人体のポーズ 完成、プレゼンテーション		
6	課題2 レリーフ 音楽を立体にする 与えられたレリーフの素材と彩色用のマーカーなどでレリーフ作品を制作する。 自身が決めた曲からイメージしたレリーフのアイデアスケッチを描く。		

7	課題2 レリーフ 音楽を立体にする 決定したアイデアスケッチをもとにレリーフを制作する。
8	課題2 レリーフ 音楽を立体にする 決定したアイデアスケッチをもとにレリーフを制作する。
9	課題2 レリーフ 音楽を立体にする 完成、プレゼンテーション
10	課題3 ボックスアート ボックスアートのアイデアを考える イラストボードを使用し箱を制作し、 その内側にジュセフ・コーネルの作品等を参考にして自身の世界感を表現する。
11	課題3 ボックスアート 決定したアイデアスケッチをもとにボックスアートを制作する。
12	課題3 ボックスアート 決定したアイデアスケッチをもとにボックスアートを制作する。
13	課題3 ボックスアート 決定したアイデアスケッチをもとにボックスアートを制作する。
14	課題3 ボックスアート 決定したアイデアスケッチをもとにボックスアートを制作する。
15	課題3 ボックスアート 完成、プレゼンテーション

科目名	造形芸術演習 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	杉井 啓三				
クラス名	キャラクター造形学科クラス				

授業目的と到達目標

課題の制作を通して二次元表現と三次元表現を比較、理解し、基本的な三次元の造形力、空間の把握を目標にする。個々の得意分野、理解度、技術力などを確認しながら授業を進める。

授業概要

対面授業|コロナ感染予防として消毒、換気、マスク着用したうえで、教室の大きさと学生数のバランスを考慮し、対面授業を行う。粘土やイラストボードなどの素材を用いた課題を3点制作する。制作のための道具の使用方法や素材の特性などを指導する。造形能力だけでなく、作品のコンセプト、イメージや色彩の意義、解釈、世界観を重要視しながら制作する。

受講上の注意

準備用具の忘れ物に注意すること。授業に積極的に関わりを持つこと。自身が好きな分野だけではなく、日常での出来事や芸術のニュースに幅広く注意しておく。美術館や博物館に行き、実物を見る。学内の情報センターや体育館ギャラリー、ハルカスキャンパスのギャラリーなどでも様々なジャンルの作品が展示されるのでチェックしておくこと。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題の完成度	80
授業に取り組む姿勢	20

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
参考資料を配布し、その都度説明しながら行なう。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 過去の参考作品を見ながら 授業の流れ、課題内容、準備用具を説明する。		
2	課題1 粘土課題 人体のポーズ アイデアを決め、与えられたモデル人形にポーズをつけ粘土で肉付けしてイメージを具現化する。 平面の作品とはちがい、立体になれば無視できない重量、重心、強度などを考えながら制作する。		
3	課題1 粘土課題 人体のポーズ 制作 完成度を高めていく		
4	課題1 粘土課題 人体のポーズ 制作 完成度を高めていく		
5	課題1 粘土課題 人体のポーズ 完成、プレゼンテーション		
6	課題2 レリーフ 音楽を立体にする 与えられたレリーフの素材と彩色用のマーカーなどでレリーフ作品を制作する。 自身が決めた曲からイメージしたレリーフのアイデアスケッチを描く。		

7	課題2 レリーフ 音楽を立体にする 決定したアイデアスケッチをもとにレリーフを制作する。
8	課題2 レリーフ 音楽を立体にする 決定したアイデアスケッチをもとにレリーフを制作する。
9	課題2 レリーフ 音楽を立体にする 完成、プレゼンテーション
10	課題3 ボックスアート ボックスアートのアイデアを考える イラストボードを使用し箱を制作し、 その内側にジュセフ・コーネルの作品等を参考にして自身の世界感を表現する。
11	課題3 ボックスアート 決定したアイデアスケッチをもとにボックスアートを制作する。
12	課題3 ボックスアート 決定したアイデアスケッチをもとにボックスアートを制作する。
13	課題3 ボックスアート 決定したアイデアスケッチをもとにボックスアートを制作する。
14	課題3 ボックスアート 決定したアイデアスケッチをもとにボックスアートを制作する。
15	課題3 ボックスアート 完成、プレゼンテーション

科目名	造形芸術演習 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	杉井 啓三				
クラス名	キャラクター造形学科クラス				

授業目的と到達目標

課題の制作を通して二次元表現と三次元表現を比較、理解し、|基本的な三次元の造形力、空間の把握を目標にする。|個々の得意分野、理解度、技術力などを確認しながら授業を進める。|

授業概要

対面授業|コロナ感染予防として消毒、換気、マスク着用したうえで、教室の大きさと学生数のバランスを考慮し、|対面授業を行う。|粘土やイラストボードなどの素材を用いた課題を 3 点制作する。|制作のための道具の使用方法や素材の特性などを指導する。|造形能力だけでなく、作品のコンセプト、イメージや色彩の意義、解釈、世界観を重要視しながら制作する。|

受講上の注意

準備用具の忘れ物に注意すること。|授業に積極的に関わりを持つこと。|自身が好きな分野だけではなく、日常での出来事や芸術のニュースに幅広く注意しておく。|美術館や博物館に行き、実物を見る。|学内の情報センターや体育館ギャラリー、ハルカスキャンパスのギャラリーなどでも様々なジャンルの作品が展示されるのでチェックしておくこと。|

成績評価方法・基準

種別	割合 (%)
課題の完成度	80
授業に取り組む姿勢	20

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
参考資料を配布し、その都度説明しながら行なう。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 過去の参考作品を見ながら 授業の流れ、課題内容、準備用具を説明する。		
2	課題1 粘土課題 人体のポーズ アイデアを決め、与えられたモデル人形にポーズをつけ粘土で肉付けしてイメージを具現化する。 平面の作品とはちがい、立体になれば無視できない重量、重心、強度などを考えながら制作する。		
3	課題1 粘土課題 人体のポーズ 制作 完成度を高めていく		
4	課題1 粘土課題 人体のポーズ 制作 完成度を高めていく		
5	課題1 粘土課題 人体のポーズ 完成、プレゼンテーション		
6	課題2 レリーフ 音楽を立体にする 与えられたレリーフの素材と彩色用のマーカーなどでレリーフ作品を制作する。 自身が決めた曲からイメージしたレリーフのアイデアスケッチを描く。		

7	課題2 レリーフ 音楽を立体にする 決定したアイデアスケッチをもとにレリーフを制作する。
8	課題2 レリーフ 音楽を立体にする 決定したアイデアスケッチをもとにレリーフを制作する。
9	課題2 レリーフ 音楽を立体にする 完成、プレゼンテーション
10	課題3 ボックスアート ボックスアートのアイデアを考える イラストボードを使用し箱を制作し、 その内側にジュセフ・コーネルの作品等を参考にして自身の世界感を表現する。
11	課題3 ボックスアート 決定したアイデアスケッチをもとにボックスアートを制作する。
12	課題3 ボックスアート 決定したアイデアスケッチをもとにボックスアートを制作する。
13	課題3 ボックスアート 決定したアイデアスケッチをもとにボックスアートを制作する。
14	課題3 ボックスアート 決定したアイデアスケッチをもとにボックスアートを制作する。
15	課題3 ボックスアート 完成、プレゼンテーション

科目名	造形芸術演習 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	杉井 啓三				
クラス名	キャラクター造形学科クラス				

授業目的と到達目標

課題の制作を通して二次元表現と三次元表現を比較、理解し、基本的な三次元の造形力、空間の把握を目標にする。個々の得意分野、理解度、技術力などを確認しながら授業を進める。

授業概要

対面授業|コロナ感染予防として消毒、換気、マスク着用したうえで、教室の大きさと学生数のバランスを考慮し、対面授業を行う。粘土やイラストボードなどの素材を用いた課題を3点制作する。制作のための道具の使用方法や素材の特性などを指導する。造形能力だけでなく、作品のコンセプト、イメージや色彩の意義、解釈、世界観を重要視しながら制作する。

受講上の注意

準備用具の忘れ物に注意すること。授業に積極的に関わりを持つこと。自身が好きな分野だけではなく、日常での出来事や芸術のニュースに幅広く注意しておく。美術館や博物館に行き、実物を見る。学内の情報センターや体育館ギャラリー、ハルカスキャンパスのギャラリーなどでも様々なジャンルの作品が展示されるのでチェックしておくこと。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題の完成度	80
授業に取り組む姿勢	20

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
参考資料を配布し、その都度説明しながら行なう。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 過去の参考作品を見ながら 授業の流れ、課題内容、準備用具を説明する。		
2	課題1 粘土課題 人体のポーズ アイデアを決め、与えられたモデル人形にポーズをつけ粘土で肉付けしてイメージを具現化する。 平面の作品とはちがい、立体になれば無視できない重量、重心、強度などを考えながら制作する。		
3	課題1 粘土課題 人体のポーズ 制作 完成度を高めていく		
4	課題1 粘土課題 人体のポーズ 制作 完成度を高めていく		
5	課題1 粘土課題 人体のポーズ 完成、プレゼンテーション		
6	課題2 レリーフ 音楽を立体にする 与えられたレリーフの素材と彩色用のマーカーなどでレリーフ作品を制作する。 自身が決めた曲からイメージしたレリーフのアイデアスケッチを描く。		

7	課題2 レリーフ 音楽を立体にする 決定したアイデアスケッチをもとにレリーフを制作する。
8	課題2 レリーフ 音楽を立体にする 決定したアイデアスケッチをもとにレリーフを制作する。
9	課題2 レリーフ 音楽を立体にする 完成、プレゼンテーション
10	課題3 ボックスアート ボックスアートのアイデアを考える イラストボードを使用し箱を制作し、 その内側にジュセフ・コーネルの作品等を参考にして自身の世界感を表現する。
11	課題3 ボックスアート 決定したアイデアスケッチをもとにボックスアートを制作する。
12	課題3 ボックスアート 決定したアイデアスケッチをもとにボックスアートを制作する。
13	課題3 ボックスアート 決定したアイデアスケッチをもとにボックスアートを制作する。
14	課題3 ボックスアート 決定したアイデアスケッチをもとにボックスアートを制作する。
15	課題3 ボックスアート 完成、プレゼンテーション

科目名	造形芸術演習 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	杉井 啓三				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標

アナログでの造形表現における様々な素材や技法を研究し修得する。|感性の向上にも心掛け、多様な表現方法に挑戦する。|個々の得意分野、理解度、技術力などを確認しながら授業を進める。

授業概要

対面授業|コロナ感染予防として消毒、換気、マスク着用したうえで、教室の大きさと学生数のバランスを考慮し、|対面授業を行う。|アクリル絵の具や粘土などの素材を用いた課題を4点制作する。|制作のための道具の使用方法や素材の特性などを指導する。|自身の得意分野にとらわれず、広い視野と柔軟な発想、制作意図・制作過程も重要視し、|様々な表現に挑戦する。

受講上の注意

準備用具の忘れ物に注意すること。|授業に積極的に関わりを持つ事。|自身が好きな分野だけではなく、日常での出来事や芸術のニュースに幅広く注意しておく。|美術館や博物館に行き、実物を見る。|学内の情報センターや体育館ギャラリー、ハルカスキャンパスのギャラリーなどでも様々なジャンルの作品が展示されるのでチェックしておくこと。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題の完成度	80
授業に取り組む姿勢	20

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
参考資料を配布し、その都度説明しながら行なう。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 過去の参考作品を見ながら 授業の流れ、課題内容、準備用具を説明する。		
2	課題1 色彩表現 アクリル絵具を用い、実験的体験を通して 24 パターンの色彩表現をする。 筆での着彩だけではなく、自身のアイデアで様々なモノを着彩用具にして独創的な色彩表現に挑戦する。 第1回 実験		
3	課題1 色彩表現 第2回 前半 12 枚制作		
4	課題1 色彩表現 第3回 後半 12 枚制作		
5	課題1 色彩表現 第4回 カットとレイアウト 完成		

6	課題2 粘土と絵の具による模刻 粘土(アーチスタフォルモ)とアクリル絵の具を用い、各自が決めたモチーフを形、色彩の模刻する。 モチーフの形、色をよく観察しながら、どこまで本物に近づけられるか挑戦する。 第1回 モチーフ決定 観察 造形
7	課題2 粘土と絵の具による模刻 第2回 造形 乾燥
8	課題2 粘土と絵の具による模刻 第3回 着彩
9	課題2 粘土と絵の具による模刻 着彩 完成
10	課題3 Tシャツ テーマ「パレイドリア」 パレイドリア現象の意味を調べ、その効果をTシャツで表現する。 描く、塗る、染める、縫う、接着など、広い視野と柔軟な発想力で制作する。 第1回 アイデアチェック
11	課題3 Tシャツ テーマ「パレイドリア」 第2回 制作
12	課題3 Tシャツ テーマ「パレイドリア」 第3回 制作
13	課題3 Tシャツ テーマ「パレイドリア」 第4回 制作
14	課題3 Tシャツ テーマ「パレイドリア」 第5回 制作 完成
15	合評

科目名	造形芸術演習 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	杉井 啓三				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標

アナログでの造形表現における様々な素材や技法を研究し修得する。|感性の向上にも心掛け、多様な表現方法に挑戦する。|個々の得意分野、理解度、技術力などを確認しながら授業を進める。

授業概要

対面授業|コロナ感染予防として消毒、換気、マスク着用したうえで、教室の大きさと学生数のバランスを考慮し、|対面授業を行う。|アクリル絵の具や粘土などの素材を用いた課題を4点制作する。|制作のための道具の使用方法や素材の特性などを指導する。|自身の得意分野にとらわれず、広い視野と柔軟な発想、制作意図・制作過程も重要視し、|様々な表現に挑戦する。

受講上の注意

準備用具の忘れ物に注意すること。|授業に積極的に関わりを持つ事。|自身が好きな分野だけではなく、日常での出来事や芸術のニュースに幅広く注意しておく。|美術館や博物館に行き、実物を見る。|学内の情報センターや体育館ギャラリー、ハルカスキャンパスのギャラリーなどでも様々なジャンルの作品が展示されるのでチェックしておくこと。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題の完成度	80
授業に取り組む姿勢	20

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
参考資料を配布し、その都度説明しながら行なう。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 過去の参考作品を見ながら 授業の流れ、課題内容、準備用具を説明する。		
2	課題1 色彩表現 アクリル絵具を用い、実験的体験を通して 24 パターンの色彩表現をする。 筆での着彩だけではなく、自身のアイデアで様々なモノを着彩用具にして独創的な色彩表現に挑戦する。 第1回 実験		
3	課題1 色彩表現 第2回 前半 12 枚制作		
4	課題1 色彩表現 第3回 後半 12 枚制作		
5	課題1 色彩表現 第4回 カットとレイアウト 完成		

6	課題2 粘土と絵の具による模刻 粘土(アーチスタフォルモ)とアクリル絵の具を用い、各自が決めたモチーフを形、色彩の模刻する。 モチーフの形、色をよく観察しながら、どこまで本物に近づけられるか挑戦する。 第1回 モチーフ決定 観察 造形
7	課題2 粘土と絵の具による模刻 第2回 造形 乾燥
8	課題2 粘土と絵の具による模刻 第3回 着彩
9	課題2 粘土と絵の具による模刻 着彩 完成
10	課題3 Tシャツ テーマ「パレイドリア」 パレイドリア現象の意味を調べ、その効果をTシャツで表現する。 描く、塗る、染める、縫う、接着など、広い視野と柔軟な発想力で制作する。 第1回 アイデアチェック
11	課題3 Tシャツ テーマ「パレイドリア」 第2回 制作
12	課題3 Tシャツ テーマ「パレイドリア」 第3回 制作
13	課題3 Tシャツ テーマ「パレイドリア」 第4回 制作
14	課題3 Tシャツ テーマ「パレイドリア」 第5回 制作 完成
15	合評

科目名	造形芸術演習 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	杉井 啓三				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標

アナログでの造形表現における様々な素材や技法を研究し修得する。|感性の向上にも心掛け、多様な表現方法に挑戦する。|個々の得意分野、理解度、技術力などを確認しながら授業を進める。 |

授業概要

対面授業|コロナ感染予防として消毒、換気、マスク着用したうえで、教室の大きさと学生数のバランスを考慮し、|対面授業を行う。|アクリル絵の具や粘土などの素材を用いた課題を4点制作する。|制作のための道具の使用方法や素材の特性などを指導する。|自身の得意分野にとらわれず、広い視野と柔軟な発想、制作意図・制作過程も重要視し、|様々な表現に挑戦する。 |

受講上の注意

準備用具の忘れ物に注意すること。|授業に積極的に関わりを持つ事。|自身が好きな分野だけではなく、日常での出来事や芸術のニュースに幅広く注意しておく。|美術館や博物館に行き、実物を見る。|学内の情報センターや体育館ギャラリー、ハルカスキャンパスのギャラリーなどでも様々なジャンルの作品が展示されるのでチェックしておくこと。 |

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題の完成度	80
授業に取り組む姿勢	20

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
参考資料を配布し、その都度説明しながら行なう。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 過去の参考作品を見ながら 授業の流れ、課題内容、準備用具を説明する。		
2	課題1 色彩表現 アクリル絵具を用い、実験的体験を通して 24 パターンの色彩表現をする。 筆での着彩だけではなく、自身のアイデアで様々なモノを着彩用具にして独創的な色彩表現に挑戦する。 第1回 実験		
3	課題1 色彩表現 第2回 前半 12 枚制作		
4	課題1 色彩表現 第3回 後半 12 枚制作		
5	課題1 色彩表現 第4回 カットとレイアウト 完成		

6	課題2 粘土と絵の具による模刻 粘土(アーチスタフォルモ)とアクリル絵の具を用い、各自が決めたモチーフを形、色彩の模刻する。 モチーフの形、色をよく観察しながら、どこまで本物に近づけられるか挑戦する。 第1回 モチーフ決定 観察 造形
7	課題2 粘土と絵の具による模刻 第2回 造形 乾燥
8	課題2 粘土と絵の具による模刻 第3回 着彩
9	課題2 粘土と絵の具による模刻 着彩 完成
10	課題3 Tシャツ テーマ「パレイドリア」 パレイドリア現象の意味を調べ、その効果をTシャツで表現する。 描く、塗る、染める、縫う、接着など、広い視野と柔軟な発想力で制作する。 第1回 アイデアチェック
11	課題3 Tシャツ テーマ「パレイドリア」 第2回 制作
12	課題3 Tシャツ テーマ「パレイドリア」 第3回 制作
13	課題3 Tシャツ テーマ「パレイドリア」 第4回 制作
14	課題3 Tシャツ テーマ「パレイドリア」 第5回 制作 完成
15	合評

科目名	造形芸術演習 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	杉井 啓三				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標

アナログでの造形表現における様々な素材や技法を研究し修得する。|感性の向上にも心掛け、多様な表現方法に挑戦する。|個々の得意分野、理解度、技術力などを確認しながら授業を進める。

授業概要

対面授業|コロナ感染予防として消毒、換気、マスク着用したうえで、教室の大きさと学生数のバランスを考慮し、|対面授業を行う。|アクリル絵の具や粘土などの素材を用いた課題を4点制作する。|制作のための道具の使用方法や素材の特性などを指導する。|自身の得意分野にとらわれず、広い視野と柔軟な発想、制作意図・制作過程も重要視し、|様々な表現に挑戦する。

受講上の注意

準備用具の忘れ物に注意すること。|授業に積極的に関わりを持つ事。|自身が好きな分野だけではなく、日常での出来事や芸術のニュースに幅広く注意しておく。|美術館や博物館に行き、実物を見る。|学内の情報センターや体育館ギャラリー、ハルカスキャンパスのギャラリーなどでも様々なジャンルの作品が展示されるのでチェックしておくこと。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題の完成度	80
授業に取り組む姿勢	20

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
参考資料を配布し、その都度説明しながら行なう。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 過去の参考作品を見ながら 授業の流れ、課題内容、準備用具を説明する。		
2	課題1 色彩表現 アクリル絵具を用い、実験的体験を通して 24 パターンの色彩表現をする。 筆での着彩だけではなく、自身のアイデアで様々なモノを着彩用具にして独創的な色彩表現に挑戦する。 第1回 実験		
3	課題1 色彩表現 第2回 前半 12 枚制作		
4	課題1 色彩表現 第3回 後半 12 枚制作		
5	課題1 色彩表現 第4回 カットとレイアウト 完成		

6	課題2 粘土と絵の具による模刻 粘土(アーチスタフォルモ)とアクリル絵の具を用い、各自が決めたモチーフを形、色彩の模刻する。 モチーフの形、色をよく観察しながら、どこまで本物に近づけられるか挑戦する。 第1回 モチーフ決定 観察 造形
7	課題2 粘土と絵の具による模刻 第2回 造形 乾燥
8	課題2 粘土と絵の具による模刻 第3回 着彩
9	課題2 粘土と絵の具による模刻 着彩 完成
10	課題3 Tシャツ テーマ「パレイドリア」 パレイドリア現象の意味を調べ、その効果をTシャツで表現する。 描く、塗る、染める、縫う、接着など、広い視野と柔軟な発想力で制作する。 第1回 アイデアチェック
11	課題3 Tシャツ テーマ「パレイドリア」 第2回 制作
12	課題3 Tシャツ テーマ「パレイドリア」 第3回 制作
13	課題3 Tシャツ テーマ「パレイドリア」 第4回 制作
14	課題3 Tシャツ テーマ「パレイドリア」 第5回 制作 完成
15	合評

科目名	造形芸術演習 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	金田 恵美子				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標

造形芸術の表現における種々な「素材」と「技法」を研究し、修得する。|又感性の向上にも心掛け、多様な表現分野に挑戦し、体得する事を目的とする。|

授業概要

【対面授業】|現代社会において、表象的な面が優先し、直接的な関わり合いが希薄になっている。作品の制作過程において、積極的に自己に関わらせ、素材と葛藤し、自己とも葛藤する事により、自分の「目」の確かさ・不確かさ、「手」の確かさ、不確かさを実感してもらいたい。又、各自の 専門分野に囚われず、広い視野に立ち、柔軟な発想力を持ち、制作意図・制作過程にも主眼を置いて、種々な表現に挑戦してもらいたいと考える。|

受講上の注意

・まず造形領域に強い関心を持つ事。|・授業に積極的に関わりを持つ事。|・制作に対して真摯に取り組む事。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
提出作品の完成度及び制作過程における態度を含め総合的に評価する。	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
40年弱の大学での造形の基礎教育の実務経験を持つ。 専門領域に偏重せず、幅広い造形知識を教授する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業内容(最終回までの進行状況)の説明と諸注意		
2	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具(顔料)を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。		
3	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具(顔料)を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。		
4	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具(顔料)を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。		

5	平面Ⅱ—モノクロームの世界 平面の基礎となる「美的形式原理」の理解のためのトレーニングを行う。次週の制作に向けての下準備に取り組む。
6	平面Ⅱ—モノクロームの世界 既成の「筆」を用いず、日常生活の中に存在する「物」を描写道具とし、墨を用いてモノクロームの表現に挑戦する。
7	平面Ⅲ—技法の世界 濃度の高い鉛筆のみを描画材料として、様々な技法を駆使し、鉛筆独自の表材感と鉛色の世界に挑戦する【B1 1点作品提出】
8	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
9	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
10	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
11	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
12	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
13	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
14	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
15	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。

科目名	造形芸術演習 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	金田 恵美子				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標

造形芸術の表現における種々な「素材」と「技法」を研究し、修得する。|又感性の向上にも心掛け、多様な表現分野に挑戦し、体得する事を目的とする。|

授業概要

【対面授業】|現代社会において、表象的な面が優先し、直接的な関わり合いが希薄になっている。作品の制作過程において、積極的に自己に関わらせ、素材と葛藤し、自己とも葛藤する事により、自分の「目」の確かさ・不確かさ、「手」の確かさ、不確かさを実感してもらいたい。又、各自の 専門分野に囚われず、広い視野に立ち、柔軟な発想力を持ち、制作意図・制作過程にも主眼を置いて、種々な表現に挑戦してもらいたいと考える。|

受講上の注意

・まず造形領域に強い関心を持つ事。|・授業に積極的に関わりを持つ事。|・制作に対して真摯に取り組む事。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
提出作品の完成度及び制作過程における態度を含め総合的に評価する。	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
40年弱の大学での造形の基礎教育の実務経験を持つ。 専門領域に偏重せず、幅広い造形知識を教授する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業内容(最終回までの進行状況)の説明と諸注意		
2	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具(顔料)を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。		
3	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具(顔料)を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。		
4	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具(顔料)を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。		

5	平面Ⅱ—モノクロームの世界 平面の基礎となる「美的形式原理」の理解のためのトレーニングを行う。次週の制作に向けての下準備に取り組む。
6	平面Ⅱ—モノクロームの世界 既成の「筆」を用いず、日常生活の中に存在する「物」を描写道具とし、墨を用いてモノクロームの表現に挑戦する。
7	平面Ⅲ—技法の世界 濃度の高い鉛筆のみを描画材料として、様々な技法を駆使し、鉛筆独自の表材感と鉛色の世界に挑戦する【B1 1点作品提出】
8	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
9	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
10	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
11	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
12	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
13	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
14	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
15	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。

科目名	造形芸術演習 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	金田 恵美子				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標

造形芸術の表現における種々な「素材」と「技法」を研究し、修得する。|又感性の向上にも心掛け、多様な表現分野に挑戦し、体得する事を目的とする。|

授業概要

【対面授業】|現代社会において、表象的な面が優先し、直接的な関わり合いが希薄になっている。作品の制作過程において、積極的に自己に関わらせ、素材と葛藤し、自己とも葛藤する事により、自分の「目」の確かさ・不確かさ、「手」の確かさ、不確かさを実感してもらいたい。又、各自の 専門分野に囚われず、広い視野に立ち、柔軟な発想力を持ち、制作意図・制作過程にも主眼を置いて、種々な表現に挑戦してもらいたいと考える。|

受講上の注意

・まず造形領域に強い関心を持つ事。|・授業に積極的に関わりを持つ事。|・制作に対して真摯に取り組む事。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
提出作品の完成度及び制作過程における態度を含め総合的に評価する。	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
40年弱の大学での造形の基礎教育の実務経験を持つ。 専門領域に偏重せず、幅広い造形知識を教授する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業内容(最終回までの進行状況)の説明と諸注意		
2	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具(顔料)を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。		
3	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具(顔料)を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。		
4	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具(顔料)を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。		

5	平面Ⅱ—モノクロームの世界 平面の基礎となる「美的形式原理」の理解のためのトレーニングを行う。次週の制作に向けての下準備に取り組む。
6	平面Ⅱ—モノクロームの世界 既成の「筆」を用いず、日常生活の中に存在する「物」を描写道具とし、墨を用いてモノクロームの表現に挑戦する。
7	平面Ⅲ—技法の世界 濃度の高い鉛筆のみを描画材料として、様々な技法を駆使し、鉛筆独自の表材感と鉛色の世界に挑戦する【B1 1点作品提出】
8	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
9	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
10	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
11	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
12	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
13	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
14	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
15	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。

科目名	造形芸術演習 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	金田 恵美子				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標

造形芸術の表現における種々な「素材」と「技法」を研究し、修得する。|又感性の向上にも心掛け、多様な表現分野に挑戦し、体得する事を目的とする。|

授業概要

【対面授業】|現代社会において、表象的な面が優先し、直接的な関わり合いが希薄になっている。作品の制作過程において、積極的に自己に関わらせ、素材と葛藤し、自己とも葛藤する事により、自分の「目」の確かさ・不確かさ、「手」の確かさ、不確かさを実感してもらいたい。又、各自の 専門分野に囚われず、広い視野に立ち、柔軟な発想力を持ち、制作意図・制作過程にも主眼を置いて、種々な表現に挑戦してもらいたいと考える。|

受講上の注意

・まず造形領域に強い関心を持つ事。|・授業に積極的に関わりを持つ事。|・制作に対して真摯に取り組む事。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
提出作品の完成度及び制作過程における態度を含め総合的に評価する。	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
40年弱の大学での造形の基礎教育の実務経験を持つ。 専門領域に偏重せず、幅広い造形知識を教授する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業内容(最終回までの進行状況)の説明と諸注意		
2	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具(顔料)を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。		
3	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具(顔料)を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。		
4	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具(顔料)を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。		

5	平面Ⅱ—モノクロームの世界 平面の基礎となる「美的形式原理」の理解のためのトレーニングを行う。次週の制作に向けての下準備に取り組む。
6	平面Ⅱ—モノクロームの世界 既成の「筆」を用いず、日常生活の中に存在する「物」を描写道具とし、墨を用いてモノクロームの表現に挑戦する。
7	平面Ⅲ—技法の世界 濃度の高い鉛筆のみを描画材料として、様々な技法を駆使し、鉛筆独自の表材感と鉛色の世界に挑戦する【B1 1点作品提出】
8	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
9	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
10	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
11	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
12	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
13	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
14	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
15	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。

科目名	造形芸術演習 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	加藤 隆明				
クラス名	キャラクター造形学科				

授業目的と到達目標

基本的な 3 次元空間の把握に努める。これは 2 次元空間表現(写真や漫画、アニメ、絵画など)と比較することで理解する。制作課題を通して経験していく。学生数や時間的制限があるため、学生の状況や理解度、技術力などを確認しながら授業を進める。

授業概要

授業では、実技的要素があり道具の使用方法や素材の特性など指導する。作品評価には作品意図の説明とそれが作品から読み解けるかを対話しながら判断する。造形作品を制作してきた経験で、作品のコンセプト制作、コンテキストや色彩の意義、イメージの解釈等の能力が養われる必要を感じている。それを重要視した内容にする。

受講上の注意

常に日常での社会的出来事やアートニュースには注意し、できるだけ専門性高い作品には触れておく。美術館、博物館など以外に幅広く知識を広げることも必要。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題3作品の提出で採点をする。	0

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報		
参考書名1		
出版社名		著者名
参考書名2		
出版社名		著者名
参考書名3		
出版社名		著者名
参考書名4		
出版社名		著者名
参考書名5		
出版社名		著者名
参考 URL		
特記事項		
教員実務経験		
造形活動の経験を生かす。		
授業計画(各回予定)		
授業回	授業内容	
1	授業ガイダンスを行う。 人型針金を粘土で肉付けし人型のイメージを制作する。 ポーズや写実的筋肉、デフォルメの身体など複数の角度から身体をイメージし制作する。(クロッキー帖を各自持参する。)	
2	第一課題【人型の造形】人型針金を粘土で肉付けし人型のイメージを制作する。 ポーズや写実的筋肉、デフォルメの身体など複数の角度から身体をイメージし制作する。 制作したい人型のイメージデッサンをする。(クロッキー帖を各自用意する。)	
3	第一課題【人型の造形】の作業を続ける。 初めて立体を制作する学生も多いようだ。 写真という作業は三次元世界を二次元のイメージに変換する作業でもある。 三次元世界の触覚性を意識するようになる。	
4	第一課題【人型の造形】 順次作品の採点をつける。 作品提示とともに、制作内容と結果について説明をする。	

5	第二課題【レリーフペインティング】市販されている素材を使用し制作をする。 表現の基礎でもある「音楽から造形に」の造形作品を制作する。 この課題では抽象画、抽象表現主義等の作品の説明を資料等でする。 かなり困難ではあるが、完成時のイメージデッサンを行う。
6	第二課題【レリーフペインティング】 イメージデッサン後は各部位に着彩作業を行う。 着彩が終わったら部位を組み上げていく。組み上げていく時は木工ボンド等を使用する。 接着時間を考慮して、制作スケジュールを各自で考える。
7	第二課題【レリーフペインティング】 この課題は学生にとって今までに経験がないようで作業に手間取るようだ。 ただ抽象概念の思考、制作なので必要である。
8	第二課題【レリーフペインティング】 レリーフペインティングの制作続行。
9	第二課題【レリーフペインティング】 制作完成した学生から作品を壁に展示し作品の見え方等を説明してもらおう。 その後採点する。 学生1人 10 分程度の時間が必要となる。
10	第二課題【レリーフペインティング】 制作完成した学生から作品を壁に展示し作品の見え方等を説明してもらおう。 その後採点する。 学生1人 10 分程度の時間が必要となる。
11	第三課題【ボックスアート】なじみのある作品形式である。 厚みのあるボードを切断側面のない箱を制作する。その中に 3 次元空間を生かした画面を制作する。 自分が制作したい世界観をイメージデッサンにして、素材を選択し構成することによりつくる。 最初ジョセフ・コーネルの作品の説明を行う。あと各自イメージデッサンの制作。
12	第三課題【ボックスアート】 継続して制作を続ける。 箱内部の空間にどのように配置するかその効果などは個人指導になる。
13	第三課題【ボックスアート】 採点を始める。今までの課題採点と同様、作品を挟み学生との質疑応答により採点をしていく。
14	第三課題【ボックスアート】 採点を始める。今までの課題採点と同様、作品を挟み学生との質疑応答により採点をしていく。
15	第三課題【ボックスアート】 採点を始める。今までの課題採点と同様、作品を挟み学生との質疑応答により採点をしていく。

科目名	造形芸術演習 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	加藤 隆明				
クラス名	キャラクター造形学科				

授業目的と到達目標

基本的な 3 次元空間の把握に努める。これは 2 次元空間表現(写真や漫画、アニメ、絵画など)と比較することで理解する。制作課題を通して経験していく。学生数や時間的制限があるため、学生の状況や理解度、技術力などを確認しながら授業を進める。

授業概要

授業では、実技的要素があり道具の使用方法や素材の特性など指導する。作品評価には作品意図の説明とそれが作品から読み解けるかを対話しながら判断する。造形作品を制作してきた経験で、作品のコンセプト制作、コンテキストや色彩の意義、イメージの解釈等の能力が養われる必要を感じている。それを重要視した内容にする。

受講上の注意

常に日常での社会的出来事やアートニュースには注意し、できるだけ専門性高い作品には触れておく。美術館、博物館など以外に幅広く知識を広げることも必要。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
3課題の作品提出で評価する。	0

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報		
参考書名1		
出版社名		著者名
参考書名2		
出版社名		著者名
参考書名3		
出版社名		著者名
参考書名4		
出版社名		著者名
参考書名5		
出版社名		著者名
参考 URL		
特記事項		
教員実務経験		
造形活動の経験を生かす。		
授業計画(各回予定)		
授業回	授業内容	
1	授業ガイダンスを行う。 人型針金を粘土で肉付けし人型のイメージを制作する。 ポーズや写実的筋肉、デフォルメの身体など複数の角度から身体をイメージし制作する。(クロッキー帖を各自持参する。)	
2	第一課題【人型の造形】人型針金を粘土で肉付けし人型のイメージを制作する。 ポーズや写実的筋肉、デフォルメの身体など複数の角度から身体をイメージし制作する。 制作したい人型のイメージデッサンをする。(クロッキー帖を各自用意する。)	
3	第一課題【人型の造形】の作業を続ける。 初めて立体を制作する学生も多いようだ。 写真という作業は三次元世界を二次元のイメージに変換する作業でもある。 三次元世界の触覚性を意識するようになる。	
4	第一課題【人型の造形】 順次作品の採点をつける。 作品提示とともに、制作内容と結果について説明をする。	

5	第二課題【レリーフペインティング】市販されている素材を使用し制作をする。 表現の基礎でもある「音楽から造形に」の造形作品を制作する。 この課題では抽象画、抽象表現主義等の作品の説明を資料等でする。 かなり困難ではあるが、完成時のイメージデッサンを行う。
6	第二課題【レリーフペインティング】 イメージデッサン後は各部位に着彩作業を行う。 着彩が終わったら部位を組み上げていく。組み上げていく時は木工ボンド等を使用する。 接着時間を考慮して、制作スケジュールを各自で考える。
7	第二課題【レリーフペインティング】 この課題は学生にとって今までに経験がないようで作業に手間取るようだ。 ただ抽象概念の思考、制作なので必要である。
8	第二課題【レリーフペインティング】 レリーフペインティングの制作続行。
9	第二課題【レリーフペインティング】 制作完成した学生から作品を壁に展示し作品の見え方等を説明してもらおう。 その後採点する。 学生1人 10 分程度の時間が必要となる。
10	第二課題【レリーフペインティング】 制作完成した学生から作品を壁に展示し作品の見え方等を説明してもらおう。 その後採点する。 学生1人 10 分程度の時間が必要となる。
11	第三課題【ボックスアート】なじみのある作品形式である。 厚みのあるボードを切断側面のない箱を制作する。その中に 3 次元空間を生かした画面を制作する。 自分が制作したい世界観をイメージデッサンにして、素材を選択し構成することによりつくる。 最初ジョセフ・コーネルの作品の説明を行う。あと各自イメージデッサンの制作。
12	第三課題【ボックスアート】 継続して制作を続ける。 箱内部の空間にどのように配置するかその効果などは個人指導になる。
13	第三課題【ボックスアート】 採点を始める。今までの課題採点と同様、作品を挟み学生との質疑応答により採点をしていく。
14	第三課題【ボックスアート】 採点を始める。今までの課題採点と同様、作品を挟み学生との質疑応答により採点をしていく。
15	第三課題【ボックスアート】 採点を始める。今までの課題採点と同様、作品を挟み学生との質疑応答により採点をしていく。

科目名	造形芸術演習 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	金田 恵美子				
クラス名	美術学科クラス				

授業目的と到達目標

造形芸術の表現における種々な「素材」と「技法」を研究し、修得する。|又感性の向上にも心掛け、多様な表現分野に挑戦し、体得する事を目的とする。|

授業概要

【対面授業】|現代社会において、表象的な面が優先し、直接的な関わり合いが希薄になっている。作品の制作過程において、積極的に自己に関わらせ、素材と葛藤し、自己とも葛藤する事により、自分の「目」の確かさ・不確かさ、「手」の確かさ、不確かさを実感してもらいたい。又、各自の 専門分野に囚われず、広い視野に立ち、柔軟な発想力を持ち、制作意図・制作過程にも主眼を置いて、種々な表現に挑戦してもらいたいと考える。|

受講上の注意

・まず造形領域に強い関心を持つ事。|・授業に積極的に関わりを持つ事。|・制作に対して真摯に取り組む事。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
提出作品の完成度及び制作過程における態度を含め総合的に評価する。	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
40年弱の大学での造形の基礎教育の実務経験を持つ。 専門領域に偏重せず、幅広い造形知識を教授する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業内容(最終回までの進行状況)の説明と諸注意		
2	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具(顔料)を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。		
3	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具(顔料)を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。		
4	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具(顔料)を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。		

5	平面Ⅱ—モノクロームの世界 平面の基礎となる「美的形式原理」の理解のためのトレーニングを行う。次週の制作に向けての下準備に取り組む。
6	平面Ⅱ—モノクロームの世界 既成の「筆」を用いず、日常生活の中に存在する「物」を描写道具とし、墨を用いてモノクロームの表現に挑戦する。
7	平面Ⅲ—技法の世界 濃度の高い鉛筆のみを描画材料として、様々な技法を駆使し、鉛筆独自の表材感と鉛色の世界に挑戦する【B1 1点作品提出】
8	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
9	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
10	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
11	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
12	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
13	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
14	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
15	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。

科目名	造形芸術演習 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	金田 恵美子				
クラス名	美術学科クラス				

授業目的と到達目標

造形芸術の表現における種々な「素材」と「技法」を研究し、修得する。|又感性の向上にも心掛け、多様な表現分野に挑戦し、体得する事を目的とする。|

授業概要

【対面授業】|現代社会において、表象的な面が優先し、直接的な関わり合いが希薄になっている。作品の制作過程において、積極的に自己に関わらせ、素材と葛藤し、自己とも葛藤する事により、自分の「目」の確かさ・不確かさ、「手」の確かさ、不確かさを実感してもらいたい。又、各自の 専門分野に囚われず、広い視野に立ち、柔軟な発想力を持ち、制作意図・制作過程にも主眼を置いて、種々な表現に挑戦してもらいたいと考える。|

受講上の注意

・まず造形領域に強い関心を持つ事。|・授業に積極的に関わりを持つ事。|・制作に対して真摯に取り組む事。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
提出作品の完成度及び制作過程における態度を含め総合的に評価する。	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
40年弱の大学での造形の基礎教育の実務経験を持つ。 専門領域に偏重せず、幅広い造形知識を教授する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業内容(最終回までの進行状況)の説明と諸注意		
2	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具(顔料)を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。		
3	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具(顔料)を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。		
4	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具(顔料)を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。		

5	平面Ⅱ—モノクロームの世界 平面の基礎となる「美的形式原理」の理解のためのトレーニングを行う。次週の制作に向けての下準備に取り組む。
6	平面Ⅱ—モノクロームの世界 既成の「筆」を用いず、日常生活の中に存在する「物」を描写道具とし、墨を用いてモノクロームの表現に挑戦する。
7	平面Ⅲ—技法の世界 濃度の高い鉛筆のみを描画材料として、様々な技法を駆使し、鉛筆独自の表材感と鉛色の世界に挑戦する【B1 1点作品提出】
8	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
9	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
10	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
11	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
12	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
13	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
14	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
15	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。

科目名	造形芸術演習 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 前期	形態	演習		
教員名	金田 恵美子				
クラス名	工芸学科クラス				

授業目的と到達目標

造形芸術の表現における種々な「素材」と「技法」を研究し、修得する。|又感性の向上にも心掛け、多様な表現分野に挑戦し、体得する事を目的とする。|

授業概要

【対面授業】|現代社会において、表象的な面が優先し、直接的な関わり合いが希薄になっている。作品の制作過程において、積極的に自己に関わらせ、素材と葛藤し、自己とも葛藤する事により、自分の「目」の確かさ・不確かさ、「手」の確かさ、不確かさを実感してもらいたい。又、各自の 専門分野に囚われず、広い視野に立ち、柔軟な発想力を持ち、制作意図・制作過程にも主眼を置いて、種々な表現に挑戦してもらいたいと考える。|

受講上の注意

・まず造形領域に強い関心を持つ事。|・授業に積極的に関わりを持つ事。|・制作に対して真摯に取り組む事。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
提出作品の完成度及び制作過程における態度を含め総合的に評価する。	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
40年弱の大学での造形の基礎教育の実務経験を持つ。 専門領域に偏重せず、幅広い造形知識を教授する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業内容(最終回までの進行状況)の説明と諸注意		
2	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具(顔料)を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。		
3	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具(顔料)を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。		
4	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具(顔料)を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。		

5	平面Ⅱ—モノクロームの世界 平面の基礎となる「美的形式原理」の理解のためのトレーニングを行う。次週の制作に向けての下準備に取り組む。
6	平面Ⅱ—モノクロームの世界 既成の「筆」を用いず、日常生活の中に存在する「物」を描写道具とし、墨を用いてモノクロームの表現に挑戦する。
7	平面Ⅲ—技法の世界 濃度の高い鉛筆のみを描画材料として、様々な技法を駆使し、鉛筆独自の表材感と鉛色の世界に挑戦する【B1 1点作品提出】
8	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
9	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
10	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
11	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
12	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
13	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
14	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
15	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。

科目名	造形芸術演習 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2022 年度 後期	形態	演習		
教員名	金田 恵美子				
クラス名	工芸学科クラス				

授業目的と到達目標

造形芸術の表現における種々な「素材」と「技法」を研究し、修得する。|又感性の向上にも心掛け、多様な表現分野に挑戦し、体得する事を目的とする。|

授業概要

【対面授業】|現代社会において、表象的な面が優先し、直接的な関わり合いが希薄になっている。作品の制作過程において、積極的に自己に関わらせ、素材と葛藤し、自己とも葛藤する事により、自分の「目」の確かさ・不確かさ、「手」の確かさ、不確かさを実感してもらいたい。又、各自の 専門分野に囚われず、広い視野に立ち、柔軟な発想力を持ち、制作意図・制作過程にも主眼を置いて、種々な表現に挑戦してもらいたいと考える。|

受講上の注意

・まず造形領域に強い関心を持つ事。|・授業に積極的に関わりを持つ事。|・制作に対して真摯に取り組む事。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
提出作品の完成度及び制作過程における態度を含め総合的に評価する。	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
40年弱の大学での造形の基礎教育の実務経験を持つ。 専門領域に偏重せず、幅広い造形知識を教授する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	授業内容(最終回までの進行状況)の説明と諸注意		
2	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具(顔料)を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。		
3	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具(顔料)を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。		
4	平面Ⅰ—色彩の世界 水溶性の絵具(顔料)を従来の常識から離れ、実験的体験を通して、混色による彩色の深さを体得する。重ねて色の深層心理の領域へも視点を移し、理解を深めた上で、各自の独創的な色彩表現へと発展させる。		

5	平面Ⅱ—モノクロームの世界 平面の基礎となる「美的形式原理」の理解のためのトレーニングを行う。次週の制作に向けての下準備に取り組む。
6	平面Ⅱ—モノクロームの世界 既成の「筆」を用いず、日常生活の中に存在する「物」を描写道具とし、墨を用いてモノクロームの表現に挑戦する。
7	平面Ⅲ—技法の世界 濃度の高い鉛筆のみを描画材料として、様々な技法を駆使し、鉛筆独自の表材感と鉛色の世界に挑戦する【B1 1点作品提出】
8	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
9	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
10	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
11	立体Ⅰ—形態と色彩 各自が選んだモチーフを形態・色彩ともに模造する。 粘土(アーチスタフォルモ・白)を用い、まず形態から挑む。形そのものは当然の如く、表面のテクスチャ(肌理)まで忠実に再現する。乾燥後、色の再現へ移行する。モチーフ自体を凌ぐ程の完成度を目標とする。
12	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
13	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
14	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。
15	立体Ⅱ-素材と形態 造形の既存の材料にとどまらず、日常生活の中に存在する「モノ」を素材として用い、立体造形に挑戦。 破壊する、切断する、構築する、組み合わせる、接合する、接着する等の様々な行為により、各自の内なる形を表出させる。構造への留意。種々の素材の独自性にも留意し、スケールの大きな存在感溢れる作品に挑戦する。

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022年度前期	形態	演習		
教員名	小泉 里美				
クラス名	再履修クラス				

授業目的と到達目標

デジタル機器(カメラやスマートフォン等)をとおして簡単に目の前の欲しい映像が手に入る今日。自分の眼で物(モチーフ)を観察し描写することで、写真に感じなかった「気づき」を持ち、新たな世界の発見につなげる。

授業概要

【対面授業】・静物、簡単な造形物などを描写する「鉛筆デッサン」・思いついたイメージを描きとめられる「スケッチ」

受講上の注意

授業中、スマートフォンを視聴しない。|課題は授業中に集中して取り組むこと。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
総合評価	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報

参考書名1	
-------	--

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
実務経験: 画家としての作品制作(絵画)や発表経験、大人から幼児まで対象とした絵画指導経験より授業を行う。 う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	【対面】 ガイダンス(授業説明)・デッサン導入(道具や描き方の説明)		
2	【対面】 スケッチ「人物」課題説明→教室内スケッチ→授業中に描いたスケッチを相互に見る		
3	【対面】 デッサン「4色の折り紙」① 課題説明→構成→下描き、デッサン それぞれの色がどの程度明度差があるか、デッサンを通して体験する		
4	【対面】 デッサン「4色の折り紙」② デッサン 形・色・質感(薄さ)に注意して制作する		
5	【対面】 デッサン「4色の折り紙」③ デッサン モチーフ(折り紙)がどんな状況で設置しているのかデッサンで表現できているか。		
6	【対面】 前回課題の合評 デッサン「白い石膏」① 構成→下描き、デッサン モチーフ室から各自「白い石膏・幾何形体」の中から描きたい物を選び、デッサンする		
7	【対面】 デッサン「白い石膏」② デッサン(形の比較と色合い、明暗の違い、角度など)		
8	【対面】 デッサン「白い石膏」③ デッサン(全体を見ながら完成)		

9	【対面】 前回課題の合評 デッサン「段ボール」① 課題説明→モチーフ制作→構成→下描き 箱のままでなく、簡単に手を加えてデッサンする
10	【対面】 デッサン「段ボール」② デッサン モチーフ(創作した段ボール)全体が1枚の紙に収まるように。 同じ色合いの明暗の変化、凹凸、深さに注目して制作する。
11	【対面】 デッサン「段ボール」③ デッサン 全体の明暗が表現できているか、1個の箱に見えるか。
12	【対面】 前回課題の合評 デッサン「身に着けているもの、あるいは身近なもの」① 課題説明→構成→下描き→デッサン 各自が今一番身近な物を持参、セッティングしてデッサンする
13	【対面】 デッサン「身に着けているもの、あるいは身近なもの」② デッサン 質感・明度などこれまでの課題制作で得た知識を活かして制作する
14	【対面】 デッサン「身に着けているもの、あるいは身近なもの」③ デッサン モチーフ物自体が表現できたのか。
15	【対面】 課題合評

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022年度 後期	形態	演習		
教員名	小泉 里美				
クラス名	再履修クラス				

授業目的と到達目標

デジタル機器(カメラやスマートフォン等)をとおして簡単に目の前の欲しい映像が手に入る今日。自分の眼で物(モチーフ)を観察し描写することで、写真に感じなかった「気づき」を持ち、新たな世界の発見につなげる。

授業概要

【対面授業】・静物、簡単な造形物などを描写する「鉛筆デッサン」・思いついたイメージを描きとめられる「スケッチ」

受講上の注意

授業中、スマートフォンを視聴しない。|課題は授業中に集中して取り組むこと。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
総合評価	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報

参考書名1	
-------	--

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
実務経験: 画家としての作品制作(絵画)や発表経験、大人から幼児まで対象とした絵画指導経験より授業を行う。 う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	【対面】 ガイダンス(授業説明)・デッサン導入(道具や描き方の説明)		
2	【対面】 スケッチ「人物」課題説明→教室内スケッチ→授業中に描いたスケッチを相互に見る		
3	【対面】 デッサン「4色の折り紙」① 課題説明→構成→下描き、デッサン それぞれの色がどの程度明度差があるか、デッサンを通して体験する		
4	【対面】 デッサン「4色の折り紙」② デッサン 形・色・質感(薄さ)に注意して制作する		
5	【対面】 デッサン「4色の折り紙」③ デッサン モチーフ(折り紙)がどんな状況で設置しているのかデッサンで表現できているか。		
6	【対面】 前回課題の合評 デッサン「白い石膏」① 構成→下描き、デッサン モチーフ室から各自「白い石膏・幾何形体」の中から描きたい物を選び、デッサンする		
7	【対面】 デッサン「白い石膏」② デッサン(形の比較と色合い、明暗の違い、角度など)		
8	【対面】 デッサン「白い石膏」③ デッサン(全体を見ながら完成)		

9	【対面】 前回課題の合評 デッサン「段ボール」① 課題説明→モチーフ制作→構成→下描き 箱のままでなく、簡単に手を加えてデッサンする
10	【対面】 デッサン「段ボール」② デッサン モチーフ(創作した段ボール)全体が1枚の紙に収まるように。 同じ色合いの明暗の変化、凹凸、深さに注目して制作する。
11	【対面】 デッサン「段ボール」③ デッサン 全体の明暗が表現できているか、1個の箱に見えるか。
12	【対面】 前回課題の合評 デッサン「身に着けているもの、あるいは身近なもの」① 課題説明→構成→下描き→デッサン 各自が今一番身近な物を持参、セッティングしてデッサンする
13	【対面】 デッサン「身に着けているもの、あるいは身近なもの」② デッサン 質感・明度などこれまでの課題制作で得た知識を活かして制作する
14	【対面】 デッサン「身に着けているもの、あるいは身近なもの」③ デッサン モチーフ物自体が表現できたのか。
15	【対面】 課題合評

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022年度 後期	形態	演習		
教員名	金田 恵美子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
「描画力」と「造形力」そして「絵画力」への挑戦と努力、達成感。					
授業概要					
【対面授業】多様化した表現の世界。その中に身を置いて「描く」ことから各自の持てる力を引き出すことを主眼に置く。 種々な描画材料にも挑戦し、描画力の向上と各自の内なるものの表出・制作活動を行う。					
受講上の注意					
・「描写」への関心と探求心を常に持ち続けること。 ・制作に対して積極的に自己を関わらせること。 ・「描く」ことを楽しむこと。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出作品の完成度及び制作過程における態度を含め総合的に評価する。			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
40年弱の大学での造形の基礎教育の実務経験を持つ。 専門領域に偏重せず、幅広い造形知識を教授する。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 描写・描画への全般的な解説。		
2	「鉛筆で描く」 紙の立方体とりんご 鉛筆のトーン表現から始める。鉛筆の美しさ。 有彩色の世界から無彩色の世界へ。		
3	「鉛筆で描く」 紙の立方体とりんご 鉛筆のトーン表現から始める。鉛筆の美しさ。 有彩色の世界から無彩色の世界へ。		
4	「色鉛筆で描く」 野菜・果物 生命感のあるモチーフ。具象形態の不思議さ、面白さ。 量感、質感、色彩。		
5	「色鉛筆で描く」 野菜・果物 生命感のあるモチーフ。具象形態の不思議さ、面白さ。 量感、質感、色彩。		
6	「墨で描く」 水墨画・自画像にヒントを得る 墨の特性と和紙の特質のコラボレーション。 偶然の力、筆における描画力への挑戦。		
7	「墨で描く」 水墨画・自画像にヒントを得る 墨の特性と和紙の特質のコラボレーション。 偶然の力、筆における描画力への挑戦。		

8	「水溶性の顔料で描く」 静物 与えられたモチーフに挑戦。 量感、質感、空間認識、色彩。
9	「水溶性の顔料で描く」 静物 与えられたモチーフに挑戦。 量感、質感、空間認識、色彩。
10	「水溶性の顔料で描く」 静物 与えられたモチーフに挑戦。 量感、質感、空間認識、色彩。
11	「自由制作」 各自の制作意図に準じて、具象表現、抽象表現。 いずれでも良い、描画材料、サイズ、点数、自由。
12	「自由制作」 各自の制作意図に準じて、具象表現、抽象表現。 いずれでも良い、描画材料、サイズ、点数、自由。
13	「自由制作」 各自の制作意図に準じて、具象表現、抽象表現。 いずれでも良い、描画材料、サイズ、点数、自由。
14	「自由制作」 各自の制作意図に準じて、具象表現、抽象表現。 いずれでも良い、描画材料、サイズ、点数、自由。
15	合評

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022年度前期	形態	演習		
教員名	杉井 啓三				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標

基礎デッサンを行う。|透視遠近法、形の把握、光と影の法則、表現方法の基礎を学ぶ。|入試のためのデッサン、デッサンのためのデッサン、ではなく、|表現方法の幅をひろげ、イマジネーションを豊かにする。|

授業概要

対面授業|コロナ感染予防として消毒、換気、マスク着用したうえで、教室の大きさと学生数のバランスを考慮し|対面授業を行う。|卓上のモチーフを描く静物デッサンを基本とするが|デッサン力だけではなく、各自の個性が出しやすいように|表現方法に自由度をもたせた課題を6点制作する。|

受講上の注意

準備用具の忘れ物に注意すること。|授業に積極的に関わりを持つこと。|自身が好きな分野だけではなく、日常での出来事や芸術のニュースに幅広く注意しておく。|美術館や博物館に行き、実物を見る。|学内の情報センターや体育館ギャラリー、ハルカスキャンパスのギャラリーなどでも様々なジャンルの作品が展示されるのでチェックしておくこと。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題の完成度	80
授業に取り組む姿勢	20

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
参考資料を配布し、その都度説明しながら行なう。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス、デッサン概論 過去の参考作品を見ながら 授業の流れ、課題内容、準備用具を説明する。		
2	課題1 立方体(ケント紙で制作)を制作しながら描く。 3点透視法、3面の描き分け		
3	課題2 紙コップと鉛筆を描く 曲面のグラデーション 組モチーフの構図の基礎		
4	課題3 自画像 (マスク着用) おまけ課題付き 変顔やメイク、シールを貼るなど 可		
5	課題3 自画像 (マスク着用) おまけ課題付き 変顔やメイク、シールを貼るなど 可		
6	課題4 ペットボトルと布 質感表現の練習 組モチーフの構図の応用 構図 制作		
7	課題4 ペットボトルと布 質感表現の練習 組モチーフの構図の応用 制作		
8	課題4 ペットボトルと布 質感表現の練習 組モチーフの構図の応用 完成		

9	課題5 写真の模写 制作	写真、雑誌のカラーページ、などの一部をモノクロで模写する
10	課題5 写真の模写 完成	写真、雑誌のカラーページ、などの一部をモノクロで模写する
11	課題6 妄想デッサン キース 下書き	学内の建築物に空想 妄想を加えて描く ロケハン エス
12	課題6 妄想デッサン	学内の建築物に空想 妄想を加えて描く 制作
13	課題6 妄想デッサン	学内の建築物に空想 妄想を加えて描く 制作
14	課題6 妄想デッサン	学内の建築物に空想 妄想を加えて描く 完成
15	合評、総評	

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022年度 後期	形態	演習		
教員名	杉井 啓三				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標

基礎デッサンを行う。|透視遠近法、形の把握、光と影の法則、表現方法の基礎を学ぶ。|入試のためのデッサン、デッサンのためのデッサン、ではなく、|表現方法の幅をひろげ、イマジネーションを豊かにする。|

授業概要

対面授業|コロナ感染予防として消毒、換気、マスク着用したうえで、教室の大きさと学生数のバランスを考慮し|対面授業を行う。|卓上のモチーフを描く静物デッサンを基本とするが|デッサン力だけではなく、各自の個性が出しやすいように|表現方法に自由度をもたせた課題を6点制作する。|

受講上の注意

準備用具の忘れ物に注意すること。|授業に積極的に関わりを持つこと。|自身が好きな分野だけではなく、日常での出来事や芸術のニュースに幅広く注意しておく。|美術館や博物館に行き、実物を見る。|学内の情報センターや体育館ギャラリー、ハルカスキャンパスのギャラリーなどでも様々なジャンルの作品が展示されるのでチェックしておくこと。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題の完成度	80
授業に取り組む姿勢	20

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
参考資料を配布し、その都度説明しながら行なう。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス、デッサン概論 過去の参考作品を見ながら 授業の流れ、課題内容、準備用具を説明する。		
2	課題1 立方体(ケント紙で制作)を制作しながら描く。 3点透視法、3面の描き分け		
3	課題2 紙コップと鉛筆を描く 曲面のグラデーション 組モチーフの構図の基礎		
4	課題3 自画像 (マスク着用) おまけ課題付き 変顔やメイク、シールを貼るなど 可		
5	課題3 自画像 (マスク着用) おまけ課題付き 変顔やメイク、シールを貼るなど 可		
6	課題4 ペットボトルと布 質感表現の練習 組モチーフの構図の応用 構図 制作		
7	課題4 ペットボトルと布 質感表現の練習 組モチーフの構図の応用 制作		
8	課題4 ペットボトルと布 質感表現の練習 組モチーフの構図の応用 完成		

9	課題5 写真の模写 制作	写真、雑誌のカラーページ、などの一部をモノクロで模写する
10	課題5 写真の模写 完成	写真、雑誌のカラーページ、などの一部をモノクロで模写する
11	課題6 妄想デッサン キース 下書き	学内の建築物に空想 妄想を加えて描く ロケハン エス
12	課題6 妄想デッサン	学内の建築物に空想 妄想を加えて描く 制作
13	課題6 妄想デッサン	学内の建築物に空想 妄想を加えて描く 制作
14	課題6 妄想デッサン	学内の建築物に空想 妄想を加えて描く 完成
15	合評、総評	

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022年度前期	形態	演習		
教員名	谷口 貞久				
クラス名					
授業目的と到達目標					
制作することの楽しさや可能性を見出し、創造する為に必要な描写力や表現力を身につける。					
授業概要					
【対面授業】基本となる観察から始め、構造の理解や遠近法を学び、徐々に難易度を高めていき、最終的にはグラビアや写真等を使用した想定デッサン(ものを見て描く力だけでなく、自分の視点や発想を表現するデッサン)を行います。					
受講上の注意					
個人の準備物は必ず持参してください。又、積極的かつ意欲ある姿勢で授業に臨んで下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品点と授業態度や授業に取り組む姿勢等、総合的に評価			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
子供絵画教室・中学校～短大・大人の方まで幅広く長年指導した経験を生かし、基礎力向上の授業を行います。 (公社)二科会 会員 (社)日本美術家連盟 会員			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 授業説明・デッサンについて・個人用準備物について・11段階グレースケール枠作成		
2	課題1:基礎デッサン1(1回目) 「グレースケール制作・手のデッサン」 鉛筆や筆圧の使い分け、面の方向性や明暗の取り方 形態の把握(骨格や肉付き)・質感・量感、ポーズの取り方		
3	課題1:基礎デッサン1(2回目)		
4	課題2:基礎デッサン2(1回目) 「色鉛筆デッサン(組モチーフ)…玉ねぎ・紙コップ」 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方		
5	課題2:基礎デッサン2(2回目)		
6	課題3:遠近法基礎 「ティッシュ箱描写」 各種の遠近法、モチーフによる遠近法の使い分け		
7	課題4:遠近法応用(1回目) 「構築物デッサン(校内)」 構築物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影		
8	課題4:遠近法応用(2回目)		
9	課題4:遠近法応用(3回目)		

10	課題4:遠近法応用(4回目)
11	課題5:想定デッサン(1回目) 「構造物を利用したシュールレアリスムの作品(色鉛筆をどこかに使用する)」及び合評 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
12	課題5:想定デッサン(2回目)
13	課題5:想定デッサン(3回目)
14	課題5:想定デッサン(4回目)
15	課題5:想定デッサン(5回目)

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022年度前期	形態	演習		
教員名	谷口 貞久				
クラス名					
授業目的と到達目標					
制作することの楽しさや可能性を見出し、創造する為に必要な描写力や表現力を身につける。					
授業概要					
【対面授業】基本となる観察から始め、構造の理解や遠近法を学び、徐々に難易度を高めていき、最終的にはグラビアや写真等を使用した想定デッサン(ものを見て描く力だけでなく、自分の視点や発想を表現するデッサン)を行います。					
受講上の注意					
個人の準備物は必ず持参してください。又、積極的かつ意欲ある姿勢で授業に臨んで下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品点と授業態度や授業に取り組む姿勢等、総合的に評価			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
子供絵画教室・中学校～短大・大人の方まで幅広く長年指導した経験を生かし、基礎力向上の授業を行います。 (公社)二科会 会員 (社)日本美術家連盟 会員			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 授業説明・デッサンについて・個人用準備物について・11段階グレースケール枠作成		
2	課題1:基礎デッサン1(1回目) 「グレースケール制作・手のデッサン」 鉛筆や筆圧の使い分け、面の方向性や明暗の取り方 形態の把握(骨格や肉付き)・質感・量感、ポーズの取り方		
3	課題1:基礎デッサン1(2回目)		
4	課題2:基礎デッサン2(1回目) 「色鉛筆デッサン(組モチーフ)…玉ねぎ・紙コップ」 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方		
5	課題2:基礎デッサン2(2回目)		
6	課題3:遠近法基礎 「ティッシュ箱描写」 各種の遠近法、モチーフによる遠近法の使い分け		
7	課題4:遠近法応用(1回目) 「構築物デッサン(校内)」 構築物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影		
8	課題4:遠近法応用(2回目)		
9	課題4:遠近法応用(3回目)		

10	課題4:遠近法応用(4回目)
11	課題5:想定デッサン(1回目) 「構造物を利用したシュールレアリスムの作品(色鉛筆をどこかに使用する)」及び合評 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
12	課題5:想定デッサン(2回目)
13	課題5:想定デッサン(3回目)
14	課題5:想定デッサン(4回目)
15	課題5:想定デッサン(5回目)

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022年度 後期	形態	演習		
教員名	谷口 貞久				
クラス名					
授業目的と到達目標					
制作することの楽しさや可能性を見出し、創造する為に必要な描写力や表現力を身につける。					
授業概要					
【対面授業】基本となる観察から始め、構造の理解や遠近法を学び、徐々に難易度を高めていき、最終的にはグラビアや写真等を使用した想定デッサン(ものを見て描く力だけでなく、自分の視点や発想を表現するデッサン)を行います。					
受講上の注意					
個人の準備物は必ず持参してください。又、積極的かつ意欲ある姿勢で授業に臨んで下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品点と授業態度や授業に取り組む姿勢等、総合的に評価			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
子供絵画教室・中学校～短大・大人の方まで幅広く長年指導した経験を生かし、基礎力向上の授業を行います。 (公社)二科会 会員 (社)日本美術家連盟 会員			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 授業説明・デッサンについて・個人用準備物について・11段階グレースケール枠作成		
2	課題1:基礎デッサン1(1回目) 「グレースケール制作・手のデッサン」 鉛筆や筆圧の使い分け、面の方向性や明暗の取り方 形態の把握(骨格や肉付き)・質感・量感、ポーズの取り方		
3	課題1:基礎デッサン1(2回目)		
4	課題2:基礎デッサン2(1回目) 「色鉛筆デッサン(組モチーフ)…玉ねぎ・紙コップ」 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方		
5	課題2:基礎デッサン2(2回目)		
6	課題3:遠近法基礎 「ティッシュ箱描写」 各種の遠近法、モチーフによる遠近法の使い分け		
7	課題4:遠近法応用(1回目) 「構築物デッサン(校内)」 構築物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影		
8	課題4:遠近法応用(2回目)		
9	課題4:遠近法応用(3回目)		

10	課題4:遠近法応用(4回目)
11	課題5:想定デッサン(1回目) 「構造物を利用したシュールレアリスムの作品(色鉛筆をどこかに使用する)」及び合評 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
12	課題5:想定デッサン(2回目)
13	課題5:想定デッサン(3回目)
14	課題5:想定デッサン(4回目)
15	課題5:想定デッサン(5回目)

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022年度 後期	形態	演習		
教員名	谷口 貞久				
クラス名					
授業目的と到達目標					
制作することの楽しさや可能性を見出し、創造する為に必要な描写力や表現力を身につける。					
授業概要					
【対面授業】基本となる観察から始め、構造の理解や遠近法を学び、徐々に難易度を高めていき、最終的にはグラビアや写真等を使用した想定デッサン(ものを見て描く力だけでなく、自分の視点や発想を表現するデッサン)を行います。					
受講上の注意					
個人の準備物は必ず持参してください。又、積極的かつ意欲ある姿勢で授業に臨んで下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品点と授業態度や授業に取り組む姿勢等、総合的に評価			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
子供絵画教室・中学校～短大・大人の方まで幅広く長年指導した経験を生かし、基礎力向上の授業を行います。 (公社)二科会 会員 (社)日本美術家連盟 会員			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 授業説明・デッサンについて・個人用準備物について・11段階グレースケール枠作成		
2	課題1:基礎デッサン1(1回目) 「グレースケール制作・手のデッサン」 鉛筆や筆圧の使い分け、面の方向性や明暗の取り方 形態の把握(骨格や肉付き)・質感・量感、ポーズの取り方		
3	課題1:基礎デッサン1(2回目)		
4	課題2:基礎デッサン2(1回目) 「色鉛筆デッサン(組モチーフ)…玉ねぎ・紙コップ」 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方		
5	課題2:基礎デッサン2(2回目)		
6	課題3:遠近法基礎 「ティッシュ箱描写」 各種の遠近法、モチーフによる遠近法の使い分け		
7	課題4:遠近法応用(1回目) 「構築物デッサン(校内)」 構築物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影		
8	課題4:遠近法応用(2回目)		
9	課題4:遠近法応用(3回目)		

10	課題4:遠近法応用(4回目)
11	課題5:想定デッサン(1回目) 「構造物を利用したシュールレアリスムの作品(色鉛筆をどこかに使用する)」及び合評 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
12	課題5:想定デッサン(2回目)
13	課題5:想定デッサン(3回目)
14	課題5:想定デッサン(4回目)
15	課題5:想定デッサン(5回目)

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022年度前期	形態	演習		
教員名	戎谷 真木子				
クラス名					

授業目的と到達目標

基本的な描写を基に自由にイメージをして展開応用する事で、個性的な表現の可能性を追求する。現代における多様な画材や素材を研究工夫し、造形の豊かな表現力を身につける。

授業概要

対面授業|驚く程多様になりスピード化した現代生活の中で、独自の知識思考法を活かした表現を追求する。又、表現する上での基本的な知識の習得や制作に関わる技術の向上を図り、表現の可能性を試みる。

受講上の注意

次回の課題を予告するので、準備物を確認忘れず持参。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題と授業態度	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報

参考書名1	
-------	--

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
洋画家. 公益社団法人二科会・絵画部会友. 認定 NPO 法人大阪府高齢者大学講師			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション		
2	鉛筆デッサン、トーンスケール、グラビアを使った描写。		
3	同上		
4	点描、顔の一部を描く、墨汁、竹串、鏡。		
5	同上		
6	鉛筆デッサン、二つの異なる形の紙コップを描く。		
7	同上		
8	鉛筆デッサン、折り鶴と小枝を描く。		
9	同上		
10	感情表現、喜怒哀楽に関わる言葉からイメージして自由制作 描画材表現自由		
11	同上		
12	鉛筆デッサン、白い布で包まれたものを描く。		

13	同上
14	合評 作品返却
15	合評 作品返却

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022年度前期	形態	演習		
教員名	戎谷 真木子				
クラス名					

授業目的と到達目標

基本的な描写を基に自由にイメージをして展開応用する事で、個性的な表現の可能性を追求する。現代における多様な画材や素材を研究工夫し、造形の豊かな表現力を身につける。

授業概要

対面授業|驚く程多様になりスピード化した現代生活の中で、独自の知識思考法を活かした表現を追求する。又、表現する上での基本的な知識の習得や制作に関わる技術の向上を図り、表現の可能性を試みる。

受講上の注意

次回の課題を予告するので、準備物を確認忘れず持参。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題と授業態度	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報

参考書名1	
-------	--

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
洋画家. 公益社団法人二科会・絵画部会友. 認定 NPO 法人大阪府高齢者大学講師			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション		
2	鉛筆デッサン、トーンスケール、グラビアを使った描写。		
3	同上		
4	点描、顔の一部を描く、墨汁、竹串、鏡。		
5	同上		
6	鉛筆デッサン、二つの異なる形の紙コップを描く。		
7	同上		
8	鉛筆デッサン、折り鶴と小枝を描く。		
9	同上		
10	感情表現、喜怒哀楽に関わる言葉からイメージして自由制作 描画材表現自由		
11	同上		
12	鉛筆デッサン、白い布で包まれたものを描く。		

13	同上
14	合評 作品返却
15	合評 作品返却

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022年度 後期	形態	演習		
教員名	戎谷 真木子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
基本的な描写を基に自由にイメージをして展開応用する事で、個性的な表現の可能性を追求する。現代における多様な画材や素材を研究工夫し、造形の豊かな表現力を身につける。					
授業概要					
対面授業 驚く程多様になりスピード化した現代生活の中で、独自の知識思考法を活かした表現を追求する。又、表現する上での基本的な知識の習得や制作に関わる技術の向上を図り、表現の可能性を試みる。					
受講上の注意					
次回の課題を予告するので、準備物を確認忘れず持参。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題と授業態度			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
洋画家. 公益社団法人二科会・絵画部会友. 認定 NPO 法人大阪府高齢者大学講師			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション		
2	鉛筆デッサン、トーンスケール、グラビアを使った描写。		
3	同上		
4	点描、顔の一部を描く、墨汁、竹串、鏡。		
5	同上		
6	鉛筆デッサン、二つの異なる形の紙コップを描く。		
7	同上		
8	鉛筆デッサン、折り鶴と小枝を描く。		
9	同上		
10	感情表現、喜怒哀楽に関わる言葉からイメージして自由制作 描画材表現自由		
11	同上		
12	鉛筆デッサン、白い布で包まれたものを描く。		

13	同上
14	合評 作品返却
15	合評 作品返却

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022年度 後期	形態	演習		
教員名	戎谷 真木子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
基本的な描写を基に自由にイメージをして展開応用する事で、個性的な表現の可能性を追求する。現代における多様な画材や素材を研究工夫し、造形の豊かな表現力を身につける。					
授業概要					
対面授業 驚く程多様になりスピード化した現代生活の中で、独自の知識思考法を活かした表現を追求する。又、表現する上での基本的な知識の習得や制作に関わる技術の向上を図り、表現の可能性を試みる。					
受講上の注意					
次回の課題を予告するので、準備物を確認忘れず持参。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題と授業態度			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
洋画家. 公益社団法人二科会・絵画部会友. 認定 NPO 法人大阪府高齢者大学講師			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション		
2	鉛筆デッサン、トーンスケール、グラビアを使った描写。		
3	同上		
4	点描、顔の一部を描く、墨汁、竹串、鏡。		
5	同上		
6	鉛筆デッサン、二つの異なる形の紙コップを描く。		
7	同上		
8	鉛筆デッサン、折り鶴と小枝を描く。		
9	同上		
10	感情表現、喜怒哀楽に関わる言葉からイメージして自由制作 描画材表現自由		
11	同上		
12	鉛筆デッサン、白い布で包まれたものを描く。		

13	同上
14	合評 作品返却
15	合評 作品返却

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022年度前期	形態	演習		
教員名	中谷 昭雄				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標

・デッサンは、radical(根源的)である、ことを知る。それは、|・好きに、自由に、やみくもにたくさん描くこと。つまり、|・自己の内側からの感覚、感情といった身体性である。また、|・具体的であるという、直接性でもある。もちろん|・表現をすることにおける、間主観性であることは言うまでもない。|

授業概要

・対面にて行う。|・「結果」とともに「プロセス」「隔たり」つまり「間」が重要になる。|・内容、形式としての“主題と副題”“部分と全体”“緊張と緩和”“強調と省略” 偶然と必然“といった問題など、|・デッサすることの徹底性による潜在性と差異化と微分化によってデッサンが、radical(根源的)である、ことを知る。|

受講上の注意

・デッサン＝絵を描くことをたくさんすること。|・そして描くためには、まず見ること、知ること(もちろんたくさん描くことによって、自然と身につけていきますが)。|・その「プロセス」、「隔たり」つまり「間」を確認しましょう。|・授業の初めにレクチャーします。遅れないようにしてください。|・また課題、持参するものなど、忘れないようにしてください。|

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題(プロセス)	50
課題(結果)	30
課題(コミュニケーション)	20

教科書情報

教科書1	なし		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	随時配布		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
以下の【スケッチブック】は、必需です。： ミューズ 水彩紙 ホワイトワトソンブック F8 239g ホワイト 15 枚入り HW-2408 F8以下の【鉛筆】は、推奨です。： ステッドラー 鉛筆 ルモグラフィ ブラック デッサン カーボン芯 4 硬度 6 本 100B G6			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション(デッサン=絵画について 評価基準について)		
2	グレースケールを使ってデッサンを模倣する (評価基準を設定する)		
3	絵画(カラー)のテクスチャーを模倣する(評価基準を設定する)		
4	絵画(カラー)を鉛筆で描く(評価基準を基に合評)		
5	モノクローム写真のテクスチャーを模倣する 合評		
6	モノクローム写真を鉛筆で描く 合評		
7	壁を描く(屋外スケッチ) 合評		

8	陰影を描く(屋外スケッチ)合評
9	光を描く(屋外スケッチ)合評
10	空を描く(屋外スケッチ)合評
11	暗闇を描く 合評
12	鏡を描く 合評
13	想像を描く 合評
14	デッサンの作品 合評
15	まとめと合評

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022年度前期	形態	演習		
教員名	中谷 昭雄				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標

・デッサンは、radical(根源的)である、ことを知る。それは、|・好きに、自由に、やみくもにたくさん描くこと。つまり、|・自己の内側からの感覚、感情といった身体性である。また、|・具体的であるという、直接性でもある。もちろん|・表現をすることにおける、間主観性であることは言うまでもない。 |

授業概要

・対面にて行う。|・「結果」とともに「プロセス」「隔たり」つまり「間」が重要になる。|・内容、形式としての“主題と副題”“部分と全体”“緊張と緩和”“強調と省略” 偶然と必然“といった問題など、|・デッサすることの徹底性による潜在性と差異化と微分化によってデッサンが、radical(根源的)である、ことを知る。 |

受講上の注意

・デッサン＝絵を描くことをたくさんすること。|・そして描くためには、まず見ること、知ること(もちろんたくさん描くことによって、自然と身についていきますが)。|・その「プロセス」、「隔たり」つまり「間」を確認しましょう。|・授業の初めにレクチャーします。遅れないようにしてください。|・また課題、持参するものなど、忘れないようにしてください。 |

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題(プロセス)	50
課題(結果)	30
課題(コミュニケーション)	20

教科書情報

教科書1	なし		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	随時配布		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
以下の【スケッチブック】は、必需です。： ミューズ 水彩紙 ホワイトワトソンブック F8 239g ホワイト 15 枚入り HW-2408 F8以下の【鉛筆】は、推奨です。： ステッドラー 鉛筆 ルモグラフィ ブラック デッサン カーボン芯 4 硬度 6 本 100B G6			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション(デッサン=絵画について 評価基準について)		
2	グレースケールを使ってデッサンを模倣する (評価基準を設定する)		
3	絵画(カラー)のテクスチャーを模倣する(評価基準を設定する)		
4	絵画(カラー)を鉛筆で描く(評価基準を基に合評)		
5	モノクローム写真のテクスチャーを模倣する 合評		
6	モノクローム写真を鉛筆で描く 合評		
7	壁を描く(屋外スケッチ) 合評		

8	陰影を描く(屋外スケッチ)合評
9	光を描く(屋外スケッチ)合評
10	空を描く(屋外スケッチ)合評
11	暗闇を描く 合評
12	鏡を描く 合評
13	想像を描く 合評
14	デッサンの作品 合評
15	まとめと合評

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022年度 後期	形態	演習		
教員名	中谷 昭雄				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標

・デッサンは、radical(根源的)である、ことを知る。それは、|・好きに、自由に、やみくもにたくさん描くこと。つまり、|・自己の内側からの感覚、感情といった身体性である。また、|・具体的であるという、直接性でもある。もちろん|・表現をすることにおける、間主観性であることは言うまでもない。 |

授業概要

・対面にて行う。|・「結果」とともに「プロセス」「隔たり」つまり「間」が重要になる。|・内容、形式としての“主題と副題”“部分と全体”“緊張と緩和”“強調と省略” “偶然と必然”といった問題など、|・デッサすることの徹底性による潜在性と差異化と微分化によってデッサンが、radical(根源的)である、ことを知る。 |

受講上の注意

・デッサン＝絵を描くことをたくさんすること。|・そして描くためには、まず見ること、知ること(もちろんたくさん描くことによって、自然と身につけていきますが)。|・その「プロセス」、「隔たり」つまり「間」を確認しましょう。|・授業の初めにレクチャーします。遅れないようにしてください。|・また課題、持参するものなど、忘れないようにしてください。 |

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題(プロセス)	50
課題(結果)	30
課題(コミュニケーション)	20

教科書情報

教科書1	なし		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	随時配布		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
以下の【スケッチブック】は、必需です。： ミューズ 水彩紙 ホワイトワトソンブック F8 239g ホワイト 15 枚入り HW-2408 F8以下の【鉛筆】は、推奨です。： ステッドラー 鉛筆 ルモグラフィ ブラック デッサン カーボン芯 4 硬度 6 本 100B G6			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション(デッサン=絵画について 評価基準について)		
2	グレースケールを使ってデッサンを模倣する (評価基準を設定する)		
3	絵画(カラー)のテクスチャーを模倣する(評価基準を設定する)		
4	絵画(カラー)を鉛筆で描く(評価基準を基に合評)		
5	モノクローム写真のテクスチャーを模倣する 合評		
6	モノクローム写真を鉛筆で描く 合評		
7	壁を描く(屋外スケッチ) 合評		

8	陰影を描く(屋外スケッチ)合評
9	光を描く(屋外スケッチ)合評
10	空を描く(屋外スケッチ)合評
11	暗闇を描く 合評
12	鏡を描く 合評
13	想像を描く 合評
14	デッサンの作品 合評
15	まとめと合評

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022年度 後期	形態	演習		
教員名	中谷 昭雄				
クラス名	デザイン学科クラス				

授業目的と到達目標

・デッサンは、radical(根源的)である、ことを知る。それは、|・好きに、自由に、やみくもにたくさん描くこと。つまり、|・自己の内側からの感覚、感情といった身体性である。また、|・具体的であるという、直接性でもある。もちろん|・表現をすることにおける、間主観性であることは言うまでもない。 |

授業概要

・対面にて行う。|・「結果」とともに「プロセス」「隔たり」つまり「間」が重要になる。|・内容、形式としての“主題と副題”“部分と全体”“緊張と緩和”“強調と省略” “偶然と必然”といった問題など、|・デッサすることの徹底性による潜在性と差異化と微分化によってデッサンが、radical(根源的)である、ことを知る。 |

受講上の注意

・デッサン＝絵を描くことをたくさんすること。|・そして描くためには、まず見ること、知ること(もちろんたくさん描くことによって、自然と身につけていきますが)。|・その「プロセス」、「隔たり」つまり「間」を確認しましょう。|・授業の初めにレクチャーします。遅れないようにしてください。|・また課題、持参するものなど、忘れないようにしてください。 |

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題(プロセス)	50
課題(結果)	30
課題(コミュニケーション)	20

教科書情報

教科書1	なし		
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			

出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	随時配布		
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
以下の【スケッチブック】は、必需です。： ミューズ 水彩紙 ホワイトワトソンブック F8 239g ホワイト 15 枚入り HW-2408 F8以下の【鉛筆】は、推奨です。： ステッドラー 鉛筆 ルモグラフィ ブラック デッサン カーボン芯 4 硬度 6 本 100B G6			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション(デッサン=絵画について 評価基準について)		
2	グレースケールを使ってデッサンを模倣する (評価基準を設定する)		
3	絵画(カラー)のテクスチャーを模倣する(評価基準を設定する)		
4	絵画(カラー)を鉛筆で描く(評価基準を基に合評)		
5	モノクローム写真のテクスチャーを模倣する 合評		
6	モノクローム写真を鉛筆で描く 合評		
7	壁を描く(屋外スケッチ) 合評		

8	陰影を描く(屋外スケッチ)合評
9	光を描く(屋外スケッチ)合評
10	空を描く(屋外スケッチ)合評
11	暗闇を描く 合評
12	鏡を描く 合評
13	想像を描く 合評
14	デッサンの作品 合評
15	まとめと合評

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022年度前期	形態	演習		
教員名	小泉 里美				
クラス名	キャラクター造形学科クラス				

授業目的と到達目標

作品制作に至る基礎的な要素の把握と展開|自己に適したデッサンの方法の認識

授業概要

【対面授業】|慣習的でパターン化した主体性のないデッサンでなく、自己の考えたこと、イメージを具体的に定着させる想像力～創造力への柔軟な力を養う。|眼前の事象をじっくりと観察することによって生じる思いがけない新たな発見や疑問、驚きといったものに積極的に関わり、その意味を自問する姿勢を期待したい。それぞれの造形分野での表現に至る思考や技術を、実験的な方法で探り、考えながら自己の表現の幅を広げる“思考”と“試行”の場にしてほしい。

受講上の注意

半期の授業であり、積極的で好奇心旺盛な制作姿勢で臨んでもらいたい。|授業中のスマートフォン視聴は禁止。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
提出作品及び制作姿勢	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
実務経験: 画家としての作品制作(絵画)や発表経験、大人から幼児まで対象とした絵画指導経験より授業を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	【対面】 ガイダンス デッサンに関する全般的な解説と用具、材料などの説明		
2	【対面】 静物-「立方体と紙コップ」 形態の把握とコンポジション(構成)の在り方		
3	【対面】 静物-「立方体と紙コップ」 量感、質感、空間の把握などに重点を置く		
4	【対面】 静物-「立方体と紙コップ」 奥行、質感に注意し、存在感の表現・完成		
5	【対面】 屋外制作-「部屋、建物の角、隅を描く」 大きな対象(塊と空間)を捉える 立体把握の応用・空間の意識とその表現		
6	【対面】 屋外制作-「部屋、建物の角、隅を描く」 凹凸を取り巻く光と陰影を捉える 調子(面)による量感表現		
7	【対面】 5、6の遅延の制作の仕上げ(各自選択) 仕上げ、完成のボーダーラインを考える		

8	【対面】 手を描くー「手の表情・三態」 各部分の間の秩序や質感などを捉える
9	【対面】 手を描くー「手の表情・三態」 形態や律動の原則 存在感への注目
10	【対面】 石膏レリーフ ー「自由に描いた線から立体に」 各自のイメージを重視 線を適当に黒く塗りつぶし、レリーフ(平らな面の凹凸)をイメージしてデッサン
11	【対面】 石膏レリーフ ー「自由に描いた線から立体に」 明暗、凹凸を意識する
12	【対面】 石膏レリーフ ー「自由に描いた線から立体に」 光の方向、凹凸、質感など完成に向けて制作
13	【対面】 何を描くかー「言葉からのイメージを導く」 与えられた言葉から、課題を設定 言葉(例)「自然と人工」「動きを描く」など
14	【対面】 何を描くかー「言葉からイメージを導く」 「作品」制作の感覚で、「何を・いかに表現するか」を意識
15	【対面】 11～14 の遅延の仕上げ

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022年度 後期	形態	演習		
教員名	小泉 里美				
クラス名	キャラクター造形学科クラス				

授業目的と到達目標

作品制作に至る基礎的な要素の把握と展開|自己に適したデッサンの方法の認識

授業概要

【対面授業】|慣習的でパターン化した主体性のないデッサンでなく、自己の考えたこと、イメージを具体的に定着させる想像力～創造力への柔軟な力を養う。|眼前の事象をじっくりと観察することによって生じる思いがけない新たな発見や疑問、驚きといったものに積極的に関わり、その意味を自問する姿勢を期待したい。それぞれの造形分野での表現に至る思考や技術を、実験的な方法で探り、考えながら自己の表現の幅を広げる“思考”と“試行”の場にしてほしい。

受講上の注意

半期の授業であり、積極的で好奇心旺盛な制作姿勢で臨んでもらいたい。|授業中のスマートフォン視聴は禁止。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
提出作品及び制作姿勢	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
実務経験: 画家としての作品制作(絵画)や発表経験、大人から幼児まで対象とした絵画指導経験より授業を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	【対面】 ガイダンス デッサンに関する全般的な解説と用具、材料などの説明		
2	【対面】 静物-「立方体と紙コップ」 形態の把握とコンポジション(構成)の在り方		
3	【対面】 静物-「立方体と紙コップ」 量感、質感、空間の把握などに重点を置く		
4	【対面】 静物-「立方体と紙コップ」 奥行、質感に注意し、存在感の表現・完成		
5	【対面】 屋外制作-「部屋、建物の角、隅を描く」 大きな対象(塊と空間)を捉える 立体把握の応用・空間の意識とその表現		
6	【対面】 屋外制作-「部屋、建物の角、隅を描く」 凹凸を取り巻く光と陰影を捉える 調子(面)による量感表現		
7	【対面】 5、6の遅延の制作の仕上げ(各自選択) 仕上げ、完成のボーダーラインを考える		

8	【対面】 手を描くー「手の表情・三態」 各部分の間の秩序や質感などを捉える
9	【対面】 手を描くー「手の表情・三態」 形態や律動の原則 存在感への注目
10	【対面】 石膏レリーフ ー「自由に描いた線から立体に」 各自のイメージを重視 線を適当に黒く塗りつぶし、レリーフ(平らな面の凹凸)をイメージしてデッサン
11	【対面】 石膏レリーフ ー「自由に描いた線から立体に」 明暗、凹凸を意識する
12	【対面】 石膏レリーフ ー「自由に描いた線から立体に」 光の方向、凹凸、質感など完成に向けて制作
13	【対面】 何を描くかー「言葉からのイメージを導く」 与えられた言葉から、課題を設定 言葉(例)「自然と人工」「動きを描く」など
14	【対面】 何を描くかー「言葉からイメージを導く」 「作品」制作の感覚で、「何を・いかに表現するか」を意識
15	【対面】 11～14 の遅延の仕上げ

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022年度前期	形態	演習		
教員名	戎谷 真木子				
クラス名	キャラクター造形学科クラス				

授業目的と到達目標

基本的な描写を基に自由にイメージをして展開応用する事で、個性的な表現の可能性を追求する。現代における多様な画材や素材を研究工夫し、造形の豊かな表現力を身につける。

授業概要

対面授業|驚く程多様になりスピード化した現代生活の中で、独自の知識思考法を活かした表現を追求する。又、表現する上での基本的な知識の習得や制作に関わる技術の向上を図り、表現の可能性を試みる。

受講上の注意

次回の課題を予告するので、準備物を確認忘れず持参。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題と授業態度	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報

参考書名1	
-------	--

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
洋画家. 公益社団法人二科会・絵画部会友. 認定 NPO 法人大阪府高齢者大学講師			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション		
2	鉛筆デッサン、トーンスケール、グラビアを使った描写。		
3	同上		
4	点描、顔の一部を描く、墨汁、竹串、鏡。		
5	同上		
6	鉛筆デッサン、二つの異なる形の紙コップを描く。		
7	同上		
8	鉛筆デッサン、折り鶴と小枝を描く。		
9	同上		
10	感情表現、喜怒哀楽に関わる言葉からイメージして自由制作 描画材表現自由		
11	同上		
12	鉛筆デッサン、白い布で包まれたものを描く。		

13	同上
14	合評 作品返却
15	合評 作品返却

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022年度 後期	形態	演習		
教員名	戎谷 真木子				
クラス名	キャラクター造形学科クラス				

授業目的と到達目標

基本的な描写を基に自由にイメージをして展開応用する事で、個性的な表現の可能性を追求する。現代における多様な画材や素材を研究工夫し、造形の豊かな表現力を身につける。

授業概要

対面授業|驚く程多様になりスピード化した現代生活の中で、独自の知識思考法を活かした表現を追求する。又、表現する上での基本的な知識の習得や制作に関わる技術の向上を図り、表現の可能性を試みる。

受講上の注意

次回の課題を予告するので、準備物を確認忘れず持参。

成績評価方法・基準

種別	割合(%)
課題と授業態度	100

教科書情報

教科書1			
出版社名		著者名	
教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	

参考書情報

参考書名1	
-------	--

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
洋画家. 公益社団法人二科会・絵画部会友. 認定 NPO 法人大阪府高齢者大学講師			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション		
2	鉛筆デッサン、トーンスケール、グラビアを使った描写。		
3	同上		
4	点描、顔の一部を描く、墨汁、竹串、鏡。		
5	同上		
6	鉛筆デッサン、二つの異なる形の紙コップを描く。		
7	同上		
8	鉛筆デッサン、折り鶴と小枝を描く。		
9	同上		
10	感情表現、喜怒哀楽に関わる言葉からイメージして自由制作 描画材表現自由		
11	同上		
12	鉛筆デッサン、白い布で包まれたものを描く。		

13	同上
14	合評 作品返却
15	合評 作品返却

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022年度前期	形態	演習		
教員名	谷口 貞久				
クラス名					
授業目的と到達目標					
制作することの楽しさや可能性を見出し、創造する為に必要な描写力や表現力を身につける。					
授業概要					
【対面授業】基本となる観察から始め、構造の理解や遠近法を学び、徐々に難易度を高めていき、最終的にはグラビアや写真等を使用した想定デッサン(ものを見て描く力だけでなく、自分の視点や発想を表現するデッサン)を行います。					
受講上の注意					
個人の準備物は必ず持参してください。又、積極的かつ意欲ある姿勢で授業に臨んで下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品点と授業態度や授業に取り組む姿勢等、総合的に評価			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
子供絵画教室・中学校～短大・大人の方まで幅広く長年指導した経験を生かし、基礎力向上の授業を行います。 (公社)二科会 会員 (社)日本美術家連盟 会員			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 授業説明・デッサンについて・個人用準備物について・11段階グレースケール枠作成		
2	課題1:基礎デッサン1(1回目) 「グレースケール制作・手のデッサン」 鉛筆や筆圧の使い分け、面の方向性や明暗の取り方 形態の把握(骨格や肉付き)・質感・量感、ポーズの取り方		
3	課題1:基礎デッサン1(2回目)		
4	課題2:基礎デッサン2(1回目) 「色鉛筆デッサン(組モチーフ)…玉ねぎ・紙コップ」 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方		
5	課題2:基礎デッサン2(2回目)		
6	課題3:遠近法基礎 「ティッシュ箱描写」 各種の遠近法、モチーフによる遠近法の使い分け		
7	課題4:遠近法応用(1回目) 「構築物デッサン(校内)」 構築物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影		
8	課題4:遠近法応用(2回目)		
9	課題4:遠近法応用(3回目)		

10	課題4:遠近法応用(4回目)
11	課題5:想定デッサン(1回目) 「構造物を利用したシュールレアリスムの作品(色鉛筆をどこかに使用する)」及び合評 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
12	課題5:想定デッサン(2回目)
13	課題5:想定デッサン(3回目)
14	課題5:想定デッサン(4回目)
15	課題5:想定デッサン(5回目)

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022年度 後期	形態	演習		
教員名	谷口 貞久				
クラス名					
授業目的と到達目標					
制作することの楽しさや可能性を見出し、創造する為に必要な描写力や表現力を身につける。					
授業概要					
【対面授業】基本となる観察から始め、構造の理解や遠近法を学び、徐々に難易度を高めていき、最終的にはグラビアや写真等を使用した想定デッサン(ものを見て描く力だけでなく、自分の視点や発想を表現するデッサン)を行います。					
受講上の注意					
個人の準備物は必ず持参してください。又、積極的かつ意欲ある姿勢で授業に臨んで下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品点と授業態度や授業に取り組む姿勢等、総合的に評価			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
子供絵画教室・中学校～短大・大人の方まで幅広く長年指導した経験を生かし、基礎力向上の授業を行います。 (公社)二科会 会員 (社)日本美術家連盟 会員			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 授業説明・デッサンについて・個人用準備物について・11段階グレースケール枠作成		
2	課題1:基礎デッサン1(1回目) 「グレースケール制作・手のデッサン」 鉛筆や筆圧の使い分け、面の方向性や明暗の取り方 形態の把握(骨格や肉付き)・質感・量感、ポーズの取り方		
3	課題1:基礎デッサン1(2回目)		
4	課題2:基礎デッサン2(1回目) 「色鉛筆デッサン(組モチーフ)…玉ねぎ・紙コップ」 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方		
5	課題2:基礎デッサン2(2回目)		
6	課題3:遠近法基礎 「ティッシュ箱描写」 各種の遠近法、モチーフによる遠近法の使い分け		
7	課題4:遠近法応用(1回目) 「構築物デッサン(校内)」 構築物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影		
8	課題4:遠近法応用(2回目)		
9	課題4:遠近法応用(3回目)		

10	課題4:遠近法応用(4回目)
11	課題5:想定デッサン(1回目) 「構造物を利用したシュールレアリスムの作品(色鉛筆をどこかに使用する)」及び合評 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
12	課題5:想定デッサン(2回目)
13	課題5:想定デッサン(3回目)
14	課題5:想定デッサン(4回目)
15	課題5:想定デッサン(5回目)

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022年度 後期	形態	演習		
教員名	谷口 貞久				
クラス名					
授業目的と到達目標					
制作することの楽しさや可能性を見出し、創造する為に必要な描写力や表現力を身につける。					
授業概要					
【対面授業】基本となる観察から始め、構造の理解や遠近法を学び、徐々に難易度を高めていき、最終的にはグラビアや写真等を使用した想定デッサン(ものを見て描く力だけでなく、自分の視点や発想を表現するデッサン)を行います。					
受講上の注意					
個人の準備物は必ず持参してください。又、積極的かつ意欲ある姿勢で授業に臨んで下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品点と授業態度や授業に取り組む姿勢等、総合的に評価			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
子供絵画教室・中学校～短大・大人の方まで幅広く長年指導した経験を生かし、基礎力向上の授業を行います。 (公社)二科会 会員 (社)日本美術家連盟 会員			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 授業説明・デッサンについて・個人用準備物について・11段階グレースケール枠作成		
2	課題1:基礎デッサン1(1回目) 「グレースケール制作・手のデッサン」 鉛筆や筆圧の使い分け、面の方向性や明暗の取り方 形態の把握(骨格や肉付き)・質感・量感、ポーズの取り方		
3	課題1:基礎デッサン1(2回目)		
4	課題2:基礎デッサン2(1回目) 「色鉛筆デッサン(組モチーフ)…玉ねぎ・紙コップ」 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方		
5	課題2:基礎デッサン2(2回目)		
6	課題3:遠近法基礎 「ティッシュ箱描写」 各種の遠近法、モチーフによる遠近法の使い分け		
7	課題4:遠近法応用(1回目) 「構築物デッサン(校内)」 構築物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影		
8	課題4:遠近法応用(2回目)		
9	課題4:遠近法応用(3回目)		

10	課題4:遠近法応用(4回目)
11	課題5:想定デッサン(1回目) 「構造物を利用したシュールレアリスムの作品(色鉛筆をどこかに使用する)」及び合評 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
12	課題5:想定デッサン(2回目)
13	課題5:想定デッサン(3回目)
14	課題5:想定デッサン(4回目)
15	課題5:想定デッサン(5回目)

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2022年度前期	形態	演習		
教員名	谷口 貞久				
クラス名					
授業目的と到達目標					
制作することの楽しさや可能性を見出し、創造する為に必要な描写力や表現力を身につける。					
授業概要					
【対面授業】基本となる観察から始め、構造の理解や遠近法を学び、徐々に難易度を高めていき、最終的にはグラビアや写真等を使用した想定デッサン(ものを見て描く力だけでなく、自分の視点や発想を表現するデッサン)を行います。					
受講上の注意					
個人の準備物は必ず持参してください。又、積極的かつ意欲ある姿勢で授業に臨んで下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品点と授業態度や授業に取り組む姿勢等、総合的に評価			100		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
子供絵画教室・中学校～短大・大人の方まで幅広く長年指導した経験を生かし、基礎力向上の授業を行います。 (公社)二科会 会員 (社)日本美術家連盟 会員			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 授業説明・デッサンについて・個人用準備物について・11段階グレースケール枠作成		
2	課題1:基礎デッサン1(1回目) 「グレースケール制作・手のデッサン」 鉛筆や筆圧の使い分け、面の方向性や明暗の取り方 形態の把握(骨格や肉付き)・質感・量感、ポーズの取り方		
3	課題1:基礎デッサン1(2回目)		
4	課題2:基礎デッサン2(1回目) 「色鉛筆デッサン(組モチーフ)…玉ねぎ・紙コップ」 構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方		
5	課題2:基礎デッサン2(2回目)		
6	課題3:遠近法基礎 「ティッシュ箱描写」 各種の遠近法、モチーフによる遠近法の使い分け		
7	課題4:遠近法応用(1回目) 「構築物デッサン(校内)」 構築物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影		
8	課題4:遠近法応用(2回目)		
9	課題4:遠近法応用(3回目)		

10	課題4:遠近法応用(4回目)
11	課題5:想定デッサン(1回目) 「構造物を利用したシュールレアリスムの作品(色鉛筆をどこかに使用する)」及び合評 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
12	課題5:想定デッサン(2回目)
13	課題5:想定デッサン(3回目)
14	課題5:想定デッサン(4回目)
15	課題5:想定デッサン(5回目)

科目名	テキスタイルアート実習 I	年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	高橋 亜希				
クラス名					
授業目的と到達目標					
織物の基礎的な知識・技術を身につけることを目的とし、様々な織物を各自で織ることにより、どのような構造になっているのかを把握、研究することで個人の創作への足がかりとなることを目標にする。					
授業概要					
授業は対面で行う織の工程を学び、実際には三原組織を基に、縞織・綴織・カード織・緋織・二重織・組織織による織布(作品)を指導する。さらに素材(植物繊維・動物繊維)の特性や、糸紡ぎや糸染め、仕上げ方法なども指導する。					
受講上の注意					
作業のしやすい服装で臨むこと。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出作品			65		
作品に取り組む姿勢			25		
ノート・PORTFOLIO 制作			10		
教科書情報					
教科書1	課題に応じてプリント配布				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	楽しいアート				

出版社名	昭和堂	著者名	井関和代・車谷哲明 編著
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
あくまでも予定です。状況・進具合により変更する場合があります。			
教員実務経験			
大阪市立クラフトパーク織物常勤指導員 合同会社 AkiOri テキスタイルデザイナー			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	織物について 三原組織説明 織り方指導 サンプル制作 縞・格子プランニング		
2	糸染め(直接染料)説明、指導 織物計画指導、作業工程説明 たて糸準備		
3	たて糸準備 よこ糸準備 織始め準備		
4	格子 織り 縞・格子 合評 帯プランニング		
5	織物計画指導、作業工程説明 たて糸準備		
6	織り方指導 帯 織り		
7	帯 織り 仕上げ説明 帯 合評 綴織プランニング		
8	織物計画指導、作業工程説明 たて糸準備 糸染め(酸性染料)説明、指導		
9	織り方指導 綴織 織り		
10	綴織 織り		
11	綴織 織り		

12	綴織 織り 組織織説明 織り方指導 サンプル制作
13	綴織 織り
14	綴織 織り
15	綴織 織り 房の始末 合評
16	カード織り説明、作業工程指導 カード織(サンプル) 織り オリジナルデザインによるカード織 織り カード織り 合評
17	絣織プランニング 織物計画指導、作業工程説明 たて糸準備糸 染め説明、指導
18	絣織 よこ糸準備(絣括り)説明、指導
19	絣織 よこ糸準備(絣括り) 糸染め
20	絣織 織り方指導 織り
21	絣織 織り
22	絣織 織り
23	絣織 織り 房の始末 絣織 合評
24	マフラー制作 織物計画指導、作業工程説明 たて糸準備 よこ糸作り(糸紡ぎ)説明、指導
25	織り方指導 マフラー 織り 房・仕上げ(縮絨)説明、指導 マフラー 合評
26	二重織り(裂織)説明 織り方指導 袋織り 仕立て説明 二重織り 合評
27	2回生全員による小作品冊子 作品プランニング 織物計画指導、作業工程説明 糸準備
28	小作品冊子 織り
29	小作品冊子 織り
30	作品仕上げ 冊子制作 小作品冊子 合評

科目名	陶器実習 I	年次	2	単位数	4
授業期間	2022 年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	田中 雅文				
クラス名					
授業目的と到達目標					
手捻り、轆轤、石膏型成形など土に対する基本的な制作技法を習得する中で、素材の特性を理解し、その造形表現を研究する。またその中で技法の応用や組合せなどを模索し、幅広い視野で自己表現を探求する。					
授業概要					
対面授業 陶芸の制作で最も大切なことは素材(粘土、釉薬、装飾材など)の特性を熟知することである。 そのためまずは基本的な造形技法(手捻り、轆轤、石膏型成形)と装飾技法(削り、絵付け、釉薬)を広く体験し、結果の考察を繰り返すことで素材についての理解を深める。 また課題制作の中で、計画を立てることや制作途中の作品の管理方法についても学び、完成までの基本的な流れを理解することで自主的且つ意欲的な制作スタンスの獲得を目指す。					
受講上の注意					
日頃より様々なジャンルの展覧会等で実物の作品を鑑賞し、自作との考察を深めておくこと。 限られた時間で効率的に制作を進めることができるよう計画性を持って課題に取り組むこと。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品			60		
制作姿勢			30		
デザイン画、マケット等の提出物			10		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報			
参考書名1			
出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
{田中雅文 Official site, http://tanakamasafumi.sakura.ne.jp/index.html }			
特記事項			
陶器実習Ⅰ(月曜日)、陶器実習Ⅱ(水曜日)、焼成実習Ⅰ(金曜日)は、同課題を通して連動し作品制作を進めていきます。			
教員実務経験			
陶芸作家／陶磁器デザイナー。国内外での作品発表、展覧会、企業タイアップによる製品制作など。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	課題説明・道具作り		
2	道具作り		
3	土練り(荒練り、菊練り)		
4	手捻り成形による造形・テーマ「音楽」の制作 制作計画、個別面談		
5	成形、装飾・制作進行状況により、随時個別指導を行う		
6	仕上げ・制作進行状況により、随時個別指導を行う		
7	轆轤成形による湯呑・テーマ「連続模様」の制作 轆轤の基礎		

8	轆轤の基礎・制作進行状況により、随時個別指導を行う
9	成形、装飾・制作進行状況により、随時個別指導を行う
10	仕上げ・制作進行状況により、随時個別指導を行う
11	石膏型成形による皿・テーマ「生き物」の制作 原型制作
12	石膏型制作・制作進行状況により、随時個別指導を行う
13	成形、装飾・制作進行状況により、随時個別指導を行う
14	仕上げ・制作進行状況により、随時個別指導を行う
15	合評(課題提出)
16	石膏型による立体造形・テーマ「貝」の制作 制作計画、個別面談
17	石膏型制作・制作進行状況により、随時個別指導を行う
18	成形、装飾・制作進行状況により、随時個別指導を行う
19	仕上げ・制作進行状況により、随時個別指導を行う
20	轆轤成形による鉢・テーマ「草花文、吉祥文」の制作 制作計画、個別面談
21	成形、装飾・制作進行状況により、随時個別指導を行う
22	仕上げ・制作進行状況により、随時個別指導を行う
23	轆轤による円筒を基本とした造形・テーマ「時間」の制作／制作計画、個別面談
24	成形、装飾・制作進行状況により、随時個別指導を行う
25	仕上げ・制作進行状況により、随時個別指導を行う
26	手捻り成形による自由造形・テーマ「自由」の制作 制作計画、個別面談
27	成形・制作進行状況により、随時個別指導を行う
28	装飾・制作進行状況により、随時個別指導を行う
29	仕上げ・制作進行状況により、随時個別指導を行う
30	合評(課題提出)

科目名	陶器実習Ⅱ	年次	2	単位数	4
授業期間	2022年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	西川 勝				
クラス名					
授業目的と到達目標					
陶芸の基礎的な形態と装飾についての理解を深め、形態と装飾の融合とその可能性を探求する。					
授業概要					
対面授業 陶芸において装飾は大切な要素である。作られた作品がより魅力的に加飾されなくてはならない。そのためには、筆描や化粧土によるかき落とし、象嵌、顔料による彩色、施釉など、文様と色彩のバランスを考察しながら授業をすすめていく。					
受講上の注意					
各課題には、アイデアスケッチ、デッサン、エスキース等を提出する事。夏季休暇中の研究、論文あり					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業に対する姿勢			30		
課題作品の評価			70		
教科書情報					
教科書1	なし				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	なし				

出版社名		著者名	
参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
数多くの公募展入選と百貨店などで個展を開催し、様々な受賞歴を持つ経験豊富な陶芸家が、釉薬 焼成 粘土造形の技術を教え、表現の幅を広げるようにする。			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	課題説明		
2	道具作りの説明と種類		
3	竹べら、カンナ、こて、トンボなど陶芸で使う道具を作る		
4	手びねりによる作品制作をおこなう(曲線または、角のある形体)		
5	主に紐づくりによる技術を習得する。		
6	形完成後、下絵具(化粧土 白 黒 青などの色化粧)を使い掻き落としによる加飾を行う 赤合わせ土を使用し各5枚、2セット		
7	化粧による加飾完了後、素焼き 施釉(透明釉)を行い 1230℃で本焼き(酸化焼成)を行う		
8	轆轤成形による湯呑制作(信楽粘土)		
9	大きさ直径 8 cm高さ 10 cm以内(焼成後)		
10	シッタを使い高台づくり		

11	乾燥し素焼きをおこなう
12	素焼き後、呉須、色呉須による加飾を行う
13	加飾後本焼きをし、完成
14	石膏型による皿の制作(テーマ生き物など)
15	信楽、赤土粘土を使うそれぞれ 5 点ずつ(10 点)
16	原形を粘土で作り、石膏を流して型を作る タタラ板(スライスした板状の粘土)を型に押し当てて成形する
17	大きさ長辺 21 cm程度深さ任意 乾燥後素焼きを行う
18	加飾を行う、呉須、アマコ絵具 4 色使用
19	石膏型による立体造形制作(テーマ貝など)
20	石膏型制作(合わせ型)抜け勾配など石膏技術の習得 2~3面割にする
21	粘土で原形を作り、石膏で型をとる。 それを元に、赤、信楽粘土でそれぞれ 4 点ずつ制作する 大きき20?程度(容積換算)
22	素焼き、施釉、本焼きののち完成 釉薬は材料演習で実験したものを使用、本焼きして完成
23	轆轤によるボール制作(5 組2セット)直径15cm、形状にあう深さ(焼成後)
24	素焼き後、加飾を行う(呉須、色呉須使用) 施釉、本焼き(酸化、還元焼成)
25	轆轤による円筒を基本とした造形 轆轤技術の向上を目指す。3 kgの粘土で直径15cm、高さ30cmの円筒をつくる
26	円筒が出来た者は、胴を膨らせて壺のような形態のものに挑戦する 素焼きの後、加飾、施釉、本焼き(酸化、還元)完成
27	手びねりによる自由造形制作 テーマは各自、自ら考える
28	粘土、釉薬、加飾それぞれ自ら選ぶ
29	大きさ、焼成後30?程度(容積換算)
30	加飾終了後、乾燥、素焼き、本焼きを行う。酸化、還元焼成の理解を深める

科目名	プロダクトデザイン演習	年次	2	単位数	2
授業期間	2022年度前期	形態	演習		
教員名	黒河 兼吉				
クラス名	【18以降生対象】				
授業目的と到達目標					
クリエイターの活動において必要不可欠なデザイン基礎力の習得を目標とする。 工芸領域で活用できるデザインのルールやセオリーを学ぶ。					
授業概要					
対面授業。 スライドレクチャーやベーシックなデザイン演習、コンピューターを用いたレイアウト編集を行う。					
受講上の注意					
授業の冒頭に課題説明を行うので遅刻しないこと。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題に関する技術的到達度			70		
受講態度			30		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	デザイン入門教室				
出版社名	SBクリエイティブ株式会社	著者名	坂本伸二		

参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
陶磁器作家および陶磁器デザイナーである教員がプロダクトデザインにおける実績を活かした指導を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 教員紹介・授業概要の説明		
2	スライドレクチャー デザインの基礎知識について		
3	コンピューター基礎 デザインソフトに触れる		
4	コンピューター基礎 デザインソフトに触れる		
5	コンピューター基礎 デザインソフトに触れる		
6	デザインのルールについて学ぶ 名刺制作を通してレイアウトの基礎を知る		
7	デザインのルールについて学ぶ 名刺制作を通してレイアウトの基礎を知る		
8	プロモーションについて学ぶ テーマ:情報の整理 DM制作を通して、情報の優先順位とレイアウトの関係性を学ぶ演習		
9	プロモーションについて学ぶ テーマ:情報の整理 DM制作を通して、情報の優先順位とレイアウトの関係性を学ぶ演習		
10	プロモーションについて学ぶ テーマ:情報の整理 DM制作を通して、情報の優先順位とレイアウトの関係性を学ぶ演習		

11	プロモーションについて学ぶ テーマ:情報の整理 DM制作を通して、情報の優先順位とレイアウトの関係性を学ぶ演習
12	プロモーションについて学ぶ2 テーマ:デザインフォーマット ポートフォリオ制作を通して分かりやすいデザインフォーマットを考える演習
13	プロモーションについて学ぶ2 テーマ:デザインフォーマット ポートフォリオ制作を通して分かりやすいデザインフォーマットを考える演習
14	プロモーションについて学ぶ2 テーマ:デザインフォーマット ポートフォリオ制作を通して分かりやすいデザインフォーマットを考える演習
15	プロモーションについて学ぶ2 テーマ:デザインフォーマット ポートフォリオ制作を通して分かりやすいデザインフォーマットを考える演習 課題提出。総評を行う。

科目名	プロダクトデザイン演習	年次	2	単位数	2
授業期間	2022年度 後期	形態	演習		
教員名	黒河 兼吉				
クラス名	【18以降生対象】				
授業目的と到達目標					
クリエイターの活動において必要不可欠なデザイン基礎力の習得を目標とする。 工芸領域で活用できるデザインのルールやセオリーを学ぶ。					
授業概要					
対面授業。 スライドレクチャーやベーシックなデザイン演習、コンピューターを用いたレイアウト編集を行う。					
受講上の注意					
授業の冒頭に課題説明を行うので遅刻しないこと。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題に関する技術的到達度			70		
受講態度			30		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	デザイン入門教室				
出版社名	SB クリエイティブ株式会社	著者名	坂本伸二		

参考書名2			
出版社名		著者名	
参考書名3			
出版社名		著者名	
参考書名4			
出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
陶磁器作家および陶磁器デザイナーである教員がプロダクトデザインにおける実績を活かした指導を行う。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	ガイダンス 教員紹介・授業概要の説明		
2	スライドレクチャー デザインの基礎知識について		
3	コンピューター基礎 デザインソフトに触れる		
4	コンピューター基礎 デザインソフトに触れる		
5	コンピューター基礎 デザインソフトに触れる		
6	デザインのルールについて学ぶ 名刺制作を通してレイアウトの基礎を知る		
7	デザインのルールについて学ぶ 名刺制作を通してレイアウトの基礎を知る		
8	プロモーションについて学ぶ テーマ:情報の整理 DM制作を通して、情報の優先順位とレイアウトの関係性を学ぶ演習		
9	プロモーションについて学ぶ テーマ:情報の整理 DM制作を通して、情報の優先順位とレイアウトの関係性を学ぶ演習		
10	プロモーションについて学ぶ テーマ:情報の整理 DM制作を通して、情報の優先順位とレイアウトの関係性を学ぶ演習		

11	プロモーションについて学ぶ テーマ:情報の整理 DM制作を通して、情報の優先順位とレイアウトの関係性を学ぶ演習
12	プロモーションについて学ぶ2 テーマ:デザインフォーマット ポートフォリオ制作を通して分かりやすいデザインフォーマットを考える演習
13	プロモーションについて学ぶ2 テーマ:デザインフォーマット ポートフォリオ制作を通して分かりやすいデザインフォーマットを考える演習
14	プロモーションについて学ぶ2 テーマ:デザインフォーマット ポートフォリオ制作を通して分かりやすいデザインフォーマットを考える演習
15	プロモーションについて学ぶ2 テーマ:デザインフォーマット ポートフォリオ制作を通して分かりやすいデザインフォーマットを考える演習 課題提出。総評を行う。

科目名	文様論	年次	2	単位数	2
授業期間	2022年度 後期	形態	講義		
教員名	齋藤 朋子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>東洋の工芸に施された文様を取り上げ、その流行・変遷・衰退を知り、文様を創造した人々・求めた人々の美意識、異文化の影響、こめられた意味を探る。工芸各分野の技法の発展と文様の変化の関係を学ぶ。文様を手懸りに、作品を観て感じ、考察したことを自分のことばで表現すること、日本の工芸史への理解を深めることを目標とする。</p>					
授業概要					
<p>対面授業 日本の文様を理解する上で、異国、とりわけ中国からの影響は見逃せない。前半は中国の古代～唐時代の文様、さらに遠く西方に由来する文様が中心となる。後半は異国風文様の和様化、日本独自の文様を取り上げ、近世の西洋との交流にも触れる。また、各時代において、工芸技術の発展状況が、異国からの舶載品の国産化や文様の受容に大きく影響することを知るため、作品の細部写真を用いて比較、考察、問いかけをしていく。</p>					
受講上の注意					
<p>まずは、UNIPA で配信する授業資料を講義前に読んでおくこと。授業後にミニレポートを課す。詳細は初回に説明する。授業時に自主学習に役立つように参考図書や作品・展覧会の情報を示す。講義だけではなく、何よりも実作品を観る機会を持つことが望ましい。状況が許さなければ、図書館の利用や博物館のデジタル化された資料を検索して活用するなどの工夫が可能である。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業後ミニレポート課題			50		
学期末レポート			40		
平常点(授業・課題への取組み、質問への回答)			10		
教科書情報					
教科書1	各回 UNIPA で授業資料を配信する。				
出版社名		著者名			

教科書2			
出版社名		著者名	
教科書3			
出版社名		著者名	
参考書情報			
参考書名1	漆芸品の鑑賞基礎知識		
出版社名	至文堂	著者名	小松大秀・加藤寛
参考書名2	やきものの鑑賞基礎知識		
出版社名	至文堂	著者名	矢部良明編
参考書名3	日本・中国の文様事典		
出版社名	視覚デザイン研究所	著者名	早坂優子
参考書名4	染と織の鑑賞基礎知識		
出版社名	至文堂	著者名	小笠原小枝
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
美術館の学芸員としての経験から、実際に手に取り観察してきた館蔵品や実見の機会を得た作品などを題材に解説し、作品や展覧会情報も提供していく。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	講義予定と課題・評価について 古代日本の文様 世界どの地域でも共通の文様 / 仏教伝来以前の日本の文様 / 我が国固有の文様 / 古墳時代の墳墓の副葬品 / 古代日本の造形の特質		
2	古代中国の文様(1)青銅器の文様と変遷 古代の祭祀 / 古代青銅器の特色と技法 / 青銅祭器の役割と文様の変遷 / 西域文様の流入		

3	古代中国の文様(2) 神仙世界の文様 青銅器の成形技法と装飾技法 / 漢時代の主要な文様 / 墳墓出土の帛画にみる神話伝説の世界 / 銅鏡文様の変遷と神仙の世界
4	唐草文の世界 ~文様の伝播と変遷~ 古代文明にあらわれる植物文様 / 唐草文の起源と伝播 / 中国における唐草文の変遷 / 朝鮮半島・日本への伝播
5	楽園への憧れと花鳥文様 ~ササン朝ペルシアの文様の東方伝播~ 唐帝国の繁栄とペルシア文化の流入 / ペルシアの金属工芸 / パラダイス(楽園)の思想 / 唐時代の金銀器—技法と文様 / 隋・唐時代の鏡の文様
6	シルクロードと染織品の文様 染織品に見る技術と文様の変遷 / シルクロードによる絹織物と織物技術の伝播 / 法隆寺・正倉院伝来の染織品の文様—唐風から和風へ
7	有職文様・家紋について 装いの変遷 / 上代裂の文様—唐風から和風へ / 有職文様 / 家紋—日本独自の紋章文化
8	漆芸品にみる唐風文様の和様化 漆について / 漆工技法<素地成形・加飾> / 飛鳥・奈良・平安時代の漆工—唐風から和風へ
9	日本の工芸にみる文芸意匠—漆工技術の発達と新たな技法 鎌倉・室町時代の漆工 / 葦手絵 / 日本人と和歌
10	桃山の意匠—漆器を中心に 絵画にみる中世から近世へ / 桃山時代の工芸に共通する意匠 / 高台寺蒔絵 / 南蛮漆器
11	異国への憧れ—絨毯の文様 日本人と絨毯 / ペルシア絨毯と文様 / イスラムの装飾文様
12	やきものと文様(1) 日本の古代・中世のやきもの 中国陶磁の影響と国産やきもの発展 / 加飾技法と文様
13	やきものと文様(2) 中世から近世へ 茶の湯とやきもの / 色彩と文様で飾られたやきもの
14	近世の小袖意匠 装いの変遷<小袖の普及> / 小袖意匠の変遷(桃山・江戸前期・江戸中期~後期)
15	琳派と工芸意匠 琳派の登場—伝統様式への挑戦 / 光悦と宗達 / 琳派の大成 / 光琳と乾山 / 光琳意匠の流行と日本人の美意識 授業のまとめ